

和花素材集 上巻

四季 沈曆

成願 義夫 Design by Yoshiro Jogan

A Japanese traditional patterns.
The illustration of a Japanese flower.





はじめに

目頃、私達が何気なく見たり使ったりしている和柄。

実は、日本の花柄には、それぞれに意味と謂れがあります。

これらの知識も、今まで受け継がれてきた日本文化のひとつです。

ひとひらの桜の花びらにも思いを込める日本人の美意識。

これからも大切に受け継いでいきたい伝統です。

本書は和柄の中でも、特に使用頻度の高い花や植物の意味と謂れを解説し、

日本の年中行事、祭事、冠婚葬祭、記念日など、プライベートからビジネスまで、

様々なシーンでお役に立てる和花素材を収録しました。

なお、本素材集は上下巻の2巻で構成され、

上巻の本書には主に1月から6月の素材を収録いたしました。

本書が和の花柄に関する知識の基となり、さらに本書の素材が、

皆様のデザインワークの幅を広げる一助となれば幸いです。

2012年1月 吉日 成頤 義夫

本書について

本書は京都を拠点に長年『着物の図案家』として活躍している著者が、日本の和柄と四季をテーマに描き下ろした植物の図柄素材集です。

和柄の中でも特に植物柄は古来より日本人に親しまれ、図柄として最もアレンジされ多用されてきました。これらの図柄は平安時代以降、それぞれの時代を通じ、様々な変遷を経て現代に受け継がれております。本書に収録されている素材は主に和柄として使用頻度が高いものを厳選しました。

和柄は、それぞれの素材ごとに【意味・謂れ】があり、また、別の素材と組み合わせることによって、新しい意味を成すものもあります。本書では伝統的な和柄の意味・謂れとそれぞれのモチーフの正しい用途を知っていただくことを目的としておりますが、収録されている素材データは現代のクリエイティブなシーンに活用していただけるようにアレンジした著者のオリジナルデザインです。



表記の違いについて

● 「文様」と「紋」の違い

和柄では文様のことを総称して「～文（もん）」と表記することがよくあります。

この「～文」とは、本来「文様」が正式名称であり、かつ「紋」という意味合いも備えている場合があります。さらに掘り下げるに、「文様」は描く者によってその形態が変化し、自由な表現方法を示すニュアンスがありますが、「紋」は例えば「家紋」のように、描き手が変わっても定型的な形態となり得ることを指しています。

長い和柄の歴史の中で、どちらの表記が正しいという決まりはありませんが、本書では、表現の幅が広く創作的な和柄を「文様」、固定的な表現の和柄を「紋」と表記することとしました。

【文様】



描き手が自由に形態を変化させることができる

【紋】



描き手が変わっても変化しない

● 植物の呼び名と解説

植物文様には、植物学的な正式名称とともに、別称や、和柄として継承されてきた名称などが存在します。それらは、中国から伝来したことによる本来とは違った解釈や、姿形が似ていることからの混同、長い歴史の中での継承が原因と思われる名称もあります。

その代表的な例として「菖蒲（あやめ）」「杜若（かきつばた）」「花菖蒲（はなしょぶ）」などがあります。本書は和柄の歴史と植物学的な見識を踏まえた上で、和柄としての意味合いがはっきりしているものはその解説を、混同されているものは和柄としての一説として紹介しています。

なお、あまり和柄として多用されない植物は季節感を重視し、植物学的かつ新たな見識として表記しています。

文様の基礎知識

和柄にはその素材の個々の名称をそのまま文様にしたものの他に、特殊な総称や形式名が文様名として存在します。本項ではその一部の特殊な文様名を紹介します。

○吉祥（きっしょう）文様

「吉祥」とは、善いことが起こる兆しのことであり、災いを避け、福を招き、長寿を願うという想いが込められています。古代中国からの思想が深く関わっており、植物や動物、器物など全てのカテゴリや組み合わせが存在します。人生の節目、祝い事や幸福を願う行事、衣装などには欠かせない文様です。

○割付（わりつけ）文様

「割付」とは、現代的にいう「タイリングパターン」のことです。一つの文様を上下左右に連結させて、延々と柄を繰り返すことができるよう、一定の面積に文様を割り付けて創作したもののことです。本書にも、素材ごとの「割付文様」を収録しています。

○正倉院（しょうそういん）文様

奈良の東大寺正倉院に納められた、聖武天皇の遺品である宝物の中に多く見られる各種工芸品に施された文様（日本最古の文様）のことです。時代の名から「天平（てんびょう）文様」とも呼ばれます。正倉院はシルクロードの終着点ともいわれ、その宝物の図柄を模倣した文様はローマやペルシャ、インド、中国などの影響を受け、格調高い文様として愛されてきました。華紋や唐草、唐花など、動植物の文様として現代に受け継がれています。

○有職（ゆうそく）紋

平安時代中期より、渡来した文化を好む風潮から和風へと文化も変容し始め、公家などの衣装や調度品の装飾も独自の優美な様式へと変化しました。「正倉院文様」などの影響を受けつつ和様化した文様は、特に公家の織物に多く用いられました。古典的な「吉祥文様」として、礼装の際などに季節を問わず使用されています。

○名物裂（めいぶつぎれ）紋

室町時代から桃山時代にかけて貿易を再開したことにより、中国を中心とする中近東から多くの織物が渡来しました。能装束や茶道、掛け軸の装飾などに珍重され、所有者や产地、茶器に由来する名などが文様に付けられています。和柄としては、その復元か組み合わせをアレンジしたものなどを指します。

○古典芸能文様（能装束・歌舞伎）

（能装束文様）

初期の頃の能装束は質素なものでしたが、室町時代に幕府や権力者の後ろ盾によって大成し、厳肅で格調高い最高の装飾が施されるようになりました。江戸時代にはその文様も理想的・象徴的に様式化され、舞台で効果を高めるためのものとして定着しました。「有職紋」や「名物裂紋」などの衣装も多く見られます。能は公家・武家にとっては欠かせない教養の一つであり、それに伴い高貴な文様が重んじられました。

（歌舞伎文様）

「歌舞伎文様」には、「かぶき者（興風を好み、派手な身なりをする者）」の好む文様としての歴史から、江戸時代の「歌舞伎」への流れを汲んだ意味合いが存在します。基本的に自己主張が強く、風変わりで鮮やかな文様であり、当初は一般的に白い服で見られていたものが、歌舞伎の流行により強い漢風と流行の一端を担うこととなりました。歌舞伎のブーム時には、歌舞伎役者の紋や役者が自ら考案した文様、舞台の情景を表すものなど、特な風情としてさまざまに発展しました。舞台で映える派手な衣装や、芝居の演目にならんだ衣装柄も存在します。

○光琳（こうりん）文様

桃山時代から江戸時代初期にかけて活躍した、俵屋宗達や尾形光琳を筆頭とした「琳派」の画風に影響を受け、自然のモチーフを大胆に單純・簡略化した装飾性の高い文様のことを指します。『花鳥風月』『雪月花』などを詩情豊かに表現し、江戸時代中期に市中で爆発的な人気を得て、さまざまな人の手により多数創作されました。よって、光琳本人が描いたというより、その画風から生まれた文様といえます。現代でも、和柄の代表的な意匠として受け継がれています。琳派のシンメトリー（左右非対称）な構図と身近な自然物を題材にする表現は、当時のヨーロッパにも影響を与え、後のアール・ヌーボーを生み出すきっかけとなりました。

○物語由来文様

江戸時代には、古典文学を楽しむ階層の幅が広がり、理解することが教養の一つとされました。特に有名な『伊勢物語』『源氏物語』や和歌などが文様として描かれ、その印象的な場面を人物や器物・植物の組み合わせなどで表現・暗示しています。例えば、八つ橋と杜若の組み合わせは『伊勢物語』の東下りを表現しており、源氏物語などのモチーフは『源氏物語』に由来しています。他にも、『竹取物語』『一寸法師』など、童話や寓話に由来する図柄が存在します。

○桃山（ももやま）文様

桃山時代、小袖が武家や公家の下着から、表着として定着し始めました。『桃山文様』の特徴として豪華絢爛な時代を反映し、金銀箔をふんだんに使用して華やかな刺繡で四季の花を表しています。また、構成も『肩拂』『段替わり』『片身替わり』など特徴的であり、花の文様の途中で唐突に色を変えたりするデフォルメ表現も持続です。幻の染めといわれる『辻が花』もこの時代に生まれた文様です。

○慶長（けいちょう）文様

江戸時代の慶長年間にかけて流行した文様形式で、代表的なものに紅・白・黒の不特定な染め分けの中に小柄を埋め尽くした文様があります。『桃山文様』とは異なり暗くて重厚な印象を与えますが、躍動感があり、刺繡を中心とした金銀箔の併用など桃山の流れが繼承され『慶長縫箔（けいちょうぬいはく）』などとも称されました。

○寛文（かんぶん）文様

江戸時代の寛文年間に流行した右肩から後ろ身頃にかけて、おおらかな流れに添って構成された自己主張の強い文様で、左右対称の構成が特徴です。大輪の菊や梅などの花、扇面、車などで大胆に表現され、絞り染めや刺繡、鹿の子紋が多用されました。特に、鹿の子紋は『寛文文様』には欠かせない技法です。それまでとは違った余白があり、諺や文学的情景を表現したものなどもありました。武家や公家の中心の衣装・文様文化から、高度成長の中で商人が力をつけ、その趣が表れはじめたのもこの頃でした。刺繡や鹿の子紋は、この頃が最盛だったともいえます。

○元禄（げんろく）文様

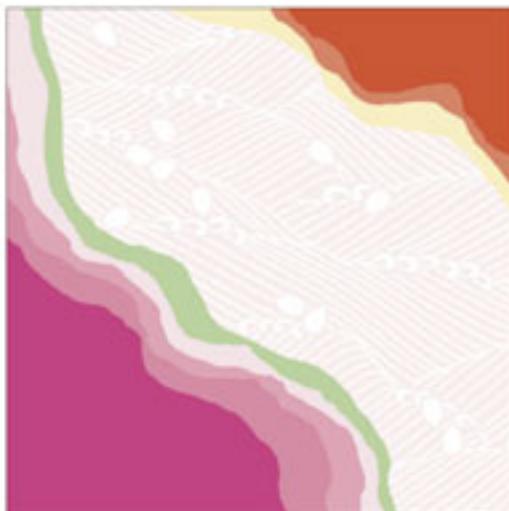
江戸時代の元禄年間に隆盛しました。「寛文文様」の影響を残しながらも余白を少なくし、文様が拡大していく点が特徴です。文様の部分が主張されているのは、江戸時代、庶民文化が最盛となり、装飾美への欲求から余白の美より豪華絢爛なものが好まれたためといえます。その結果、17世紀後半には幕府から賈沢禁止令が何度も発令されています。しかしこの頃、織防染による友禅染めが出現し、表現の幅が広がったことにより、より優美で絵画のような文様や表現が発展しました。また、この頃の友禅染めが現代の友禅の基盤となりました。

○歴史・偉人伝文様

江戸時代に鳳が庶民の間で大流行しました。主に鳳や大漁旗に描かれた図柄には、勇ましさを競うように、歴史上の偉人や物語の偉人が描かれました。有名な図柄では武田信玄と上杉謙信を描いた『川中島合戦図』があります。このように男性的な荒々しさや勇敢さを表現する場合に用います。祭り飾り、大漁旗、鳳船、男子の節句飾りなど。現代でもその文様は様式化され、継承されています。なお、「～図」という名称は絵画的手法が強い一点ものに用いられ、それを元に織物や染め物に転用した図柄が「～文様」となります。



日本の伝統色を活用する春



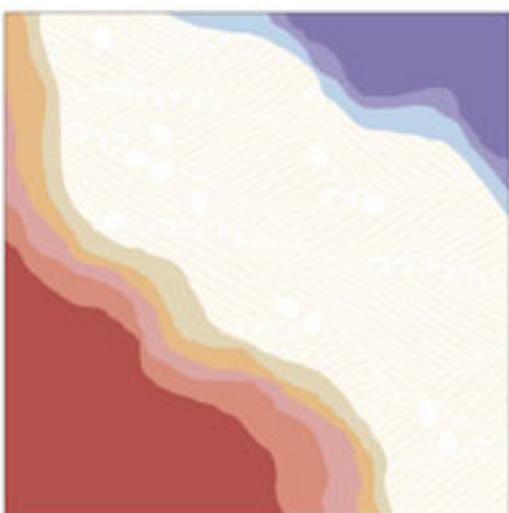
【華やかな春色】

藤園色 C 3 R 227 M 89 G 52 Y 16 B 125 K 0	桃色 C 2 R 236 M 60 G 130 Y 17 B 159 K 0	碧色 C 0 R 242 M 47 G 163 Y 14 B 179 K 0
桜色 C 0 R 251 M 16 G 227 Y 5 B 230 K 0	若葉色 C 35 R 178 M 0 G 214 Y 47 B 157 K 2	薄桜 C 0 R 253 M 10 G 238 Y 6 B 236 K 0
扇の子色 C 0 R 255 M 7 G 240 Y 30 B 193 K 0	東雲色 C 0 R 239 M 62 G 128 Y 58 B 95 K 0	紅緋 C 0 R 233 M 85 G 72 Y 95 B 41 K 0



【可憐な春色】

牡丹色 C 18 R 204 M 82 G 74 Y 0 B 149 K 0	碧色 C 0 R 241 M 50 G 158 Y 10 B 181 K 0	黄緋 C 0 R 255 M 5 G 236 Y 73 B 89 K 0
鳶色 C 32 R 183 M 0 G 223 Y 14 B 224 K 0	藤紫 C 26 R 196 M 31 G 181 Y 0 B 216 K 0	桜色 C 0 R 251 M 16 G 227 Y 5 B 230 K 0
扇の子色 C 0 R 254 M 10 G 236 Y 24 B 203 K 0	桃色 C 0 R 238 M 62 G 129 Y 25 B 145 K 0	

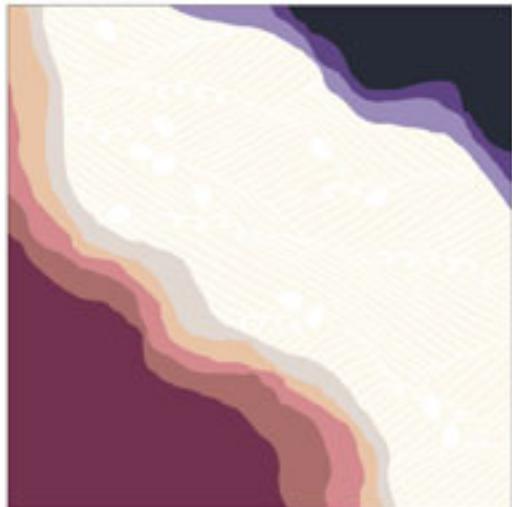


【慶事（喜び）の春色】

茜色 C 16 R 208 M 85 G 69 Y 69 B 67 K 0	曙色 C 0 R 240 M 57 G 140 Y 47 B 117 K 0	紅梅色 C 2 R 240 M 45 G 161 Y 27 B 161 K 0
萱草色 C 0 R 247 M 34 G 187 Y 52 B 126 K 0	瑪瑙色 C 12 R 230 M 16 G 214 Y 32 B 179 K 0	象牙色 C 0 R 255 M 3 G 249 Y 11 B 234 K 0
勿忘草色 C 34 R 178 M 10 G 208 Y 4 B 233 K 0	棟色 C 42 R 181 M 42 G 140 Y 0 B 199 K 0	墨色 C 56 R 133 M 58 G 113 Y 1 B 177 K 0

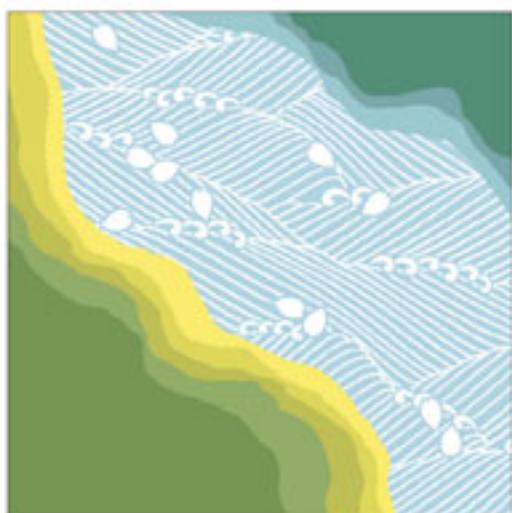
【色数値の定義についての留意点】

同じ和名でも色の組み合わせによって色数値が異なる場合があります。これは、和の色の組み合わせが相対的なものであり、色やその和名に絶対的な定義が存在しないためです。本書では和の色の数値的定義は行わず、和の色の組み合わせにおける配色の上で、和名と数値を当てはめています。



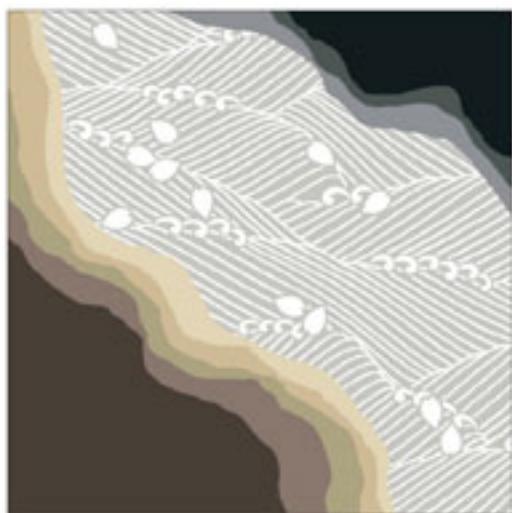
【雅な春色】

葡萄色 G 51 R 137 M 93 G 47 Y 58 B 77 K 10	紅惑 G 0 R 196 M 60 G 199 Y 38 B 196 K 26	甚三紅 G 0 R 239 M 60 G 133 Y 32 B 137 K 0
雄黄 G 0 R 248 M 20 G 197 Y 35 B 163 K 0	灰梅 G 2 R 234 M 12 G 218 Y 12 B 209 K 10	象牙色 G 0 R 255 M 3 G 249 Y 11 B 234 K 0
紫苑色 G 43 R 159 M 51 G 132 Y 6 B 188 K 0	本紫 G 71 R 193 M 87 G 59 Y 14 B 134 K 0	鉄紺 G 87 R 35 M 84 G 39 Y 60 B 58 K 46



【若葉の春色】

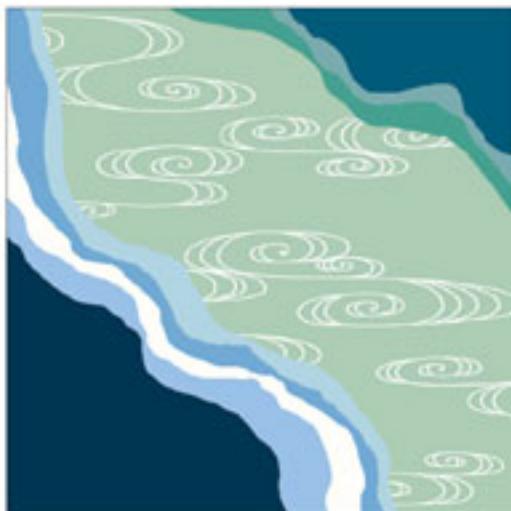
緑 G 69 R 86 M 23 G 152 Y 65 B 77 K 0	薄緑 G 55 R 125 M 13 G 176 Y 75 B 92 K 0	青丹 G 32 R 189 M 15 G 194 Y 85 B 64 K 0
臘色 G 16 R 225 M 9 G 216 Y 82 B 66 K 0	菜の花色 G 0 R 255 M 5 G 236 Y 73 B 89 K 0	瓶観 G 42 R 155 M 0 G 214 Y 11 B 228 K 0
白群 G 52 R 124 M 9 G 202 Y 20 B 209 K 0	鶴淡藍 G 67 R 80 M 14 G 170 Y 34 B 172 K 0	新葉色 G 93 R 0 M 23 G 166 Y 63 B 117 K 0



【弔辞（悲しみ）の春色】

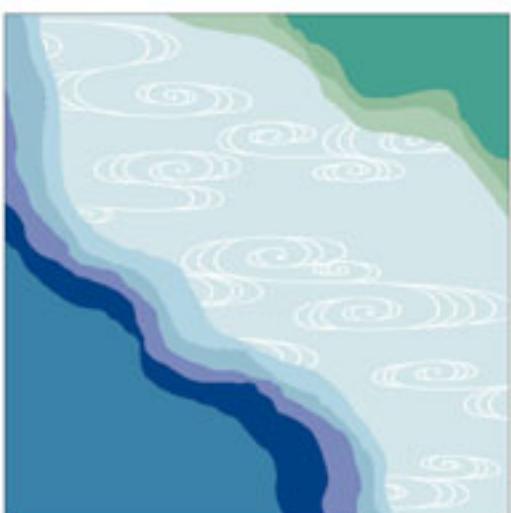
黒鶴 G 67 R 77 M 73 G 58 Y 71 B 54 K 40	桜茶色 G 51 R 144 M 55 G 118 Y 57 B 105 K 1	黄海松茶 G 36 R 178 M 33 G 166 Y 54 B 124 K 0
枯色 G 5 R 218 M 20 G 191 Y 30 B 150 K 15	白橡 G 12 R 200 M 19 G 214 Y 32 B 179 K 0	銀鼠 G 25 R 200 M 19 G 199 Y 23 B 193 K 0
錫色 G 52 R 138 M 39 G 147 Y 36 B 150 K 0	革色 G 79 R 67 M 63 G 63 Y 62 B 63 K 20	墨色 G 92 R 7 M 79 G 27 Y 73 B 31 K 65

日本の伝統色を活用する夏



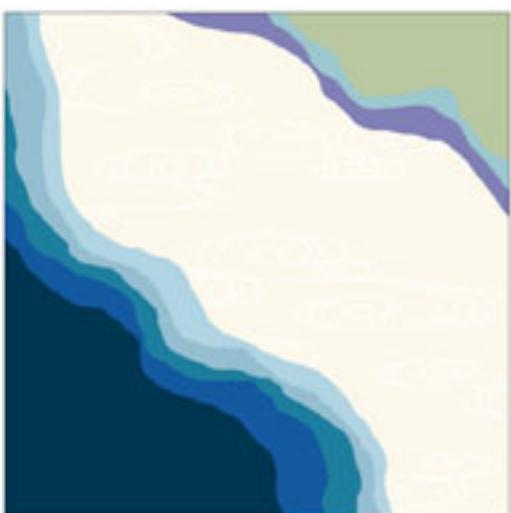
【涼しげな夏色】

紺色 C 100 R 0 M 85 G 51 Y 50 B 84 K 24	勿忘草色 C 62 R 123 M 10 G 191 Y 9 B 234 K 0	胡粉色 C 0 R 265 M 0 G 255 Y 3 B 250 K 0
露草色 C 72 R 30 M 13 G 168 Y 7 B 216 K 0	空色 C 42 R 155 M 0 G 214 Y 11 B 226 K 0	薄青 C 44 R 153 M 0 G 209 Y 37 B 179 K 0
花緑青 C 87 R 0 M 0 G 166 Y 53 B 145 K 0	水浅葱 C 67 R 72 M 10 G 174 Y 33 B 177 K 0	深緑 C 100 R 0 M 60 G 92 Y 41 B 125 K 2



【水辺の夏色】

花浅葱 C 89 R 0 M 32 G 132 Y 23 B 173 K 0	紺青色 C 100 R 0 M 95 G 60 Y 16 B 126 K 0	紅掛花色 C 66 R 105 M 44 G 132 Y 0 B 104 K 0
新緑色 C 56 R 116 M 0 G 193 Y 17 B 210 K 0	空色 C 42 R 155 M 0 G 214 Y 11 B 226 K 0	白盤 C 26 R 199 M 0 G 230 Y 10 B 234 K 0
薄青 C 44 R 153 M 0 G 209 Y 37 B 179 K 0	若竹色 C 58 R 111 M 0 G 193 Y 48 B 155 K 0	青綠 C 87 R 0 M 0 G 166 Y 53 B 145 K 0

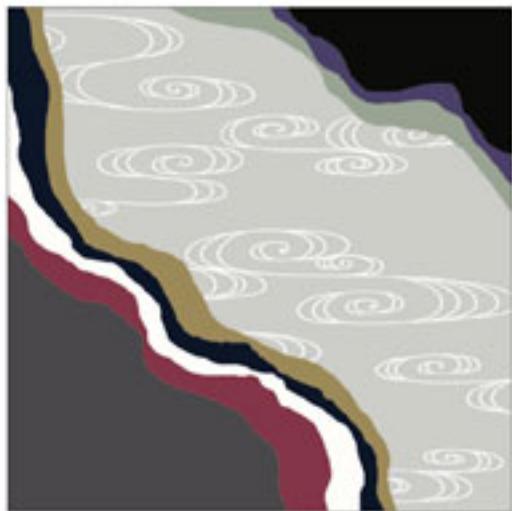


【慶事（喜び）の夏色】

紺色 C 100 R 0 M 85 G 51 Y 50 B 84 K 24	瑠璃色 C 96 R 0 M 65 G 86 Y 0 B 157 K 0	納戸色 C 95 R 0 M 31 G 130 Y 30 B 164 K 0
新緑色 C 56 R 116 M 0 G 193 Y 17 B 210 K 0	瓶観 C 42 R 155 M 0 G 214 Y 11 B 220 K 0	象牙色 C 0 R 255 M 3 G 249 Y 10 B 234 K 0
桔梗色 C 68 R 123 M 52 G 122 Y 0 B 184 K 0	白群 C 62 R 124 M 0 G 202 Y 20 B 209 K 0	裏葉柳 C 36 R 177 M 10 G 202 Y 45 B 157 K 0

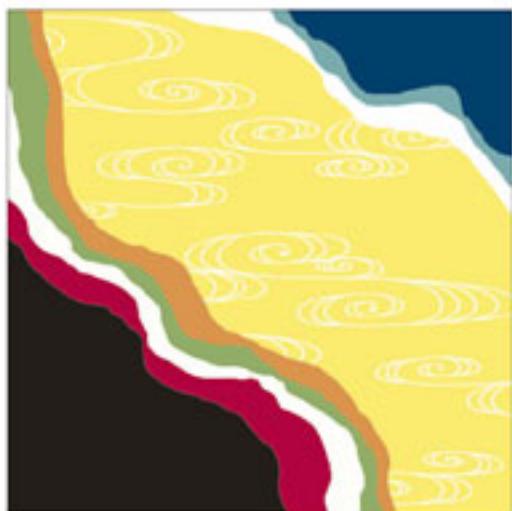
【色数値の定義についての留意点】

同じ和名でも色の組み合わせによって色数値が異なる場合があります。これは、和の色の組み合わせが相対的なものであり、色やその和名に絶対的な定義が存在しないためです。本書では和の色の数値的定義は行わず、和の色の組み合わせにおける配色の上で、和名と数値を当てはめています。



【粋な夏色】

端色 G 0 R 69 M 0 G 66 Y 0 B 65 K 87	濃紅 G 42 R 158 M 93 G 49 Y 67 B 68 K 6	胡粉色 G 0 R 255 M 0 G 255 Y 3 B 250 K 0
鉄絞 G 76 R 0 M 50 G 10 Y 10 B 42 K 89	桑染 G 18 R 109 M 30 G 143 Y 64 B 82 K 31	銀鼠 G 23 R 200 M 17 G 206 Y 20 B 199 K 0
深川鼠 G 20 R 150 M 8 G 169 Y 30 B 151 K 30	漆紫 G 81 R 76 M 87 G 57 Y 40 B 104 K 7	漆黒 G 69 R 1 M 50 G 6 Y 50 B 8 K 95



【祭りの夏色】

端色 G 10 R 34 M 10 G 23 Y 10 B 22 K 98	紅色 G 0 R 215 M 100 G 0 Y 65 B 18 K 10	胡粉色 G 0 R 255 M 0 G 255 Y 3 B 260 K 0
緑明黄 G 56 R 125 M 13 G 175 Y 76 B 92 K 0	紅珊瑚 G 0 R 242 M 52 G 148 Y 80 B 58 K 0	黄褐色 G 0 R 255 M 5 G 236 Y 73 B 89 K 0
白 G 0 R 255 M 0 G 255 Y 0 B 255 K 0	水漫薔 G 67 R 72 M 65 G 174 Y 33 B 177 K 0	漆絞 G 100 R 0 M 95 G 61 Y 39 B 109 K 4



【弔辞（悲しみ）の夏色】

百入茶 G 92 R 17 M 78 G 43 Y 64 B 55 K 40	御納戸色 G 92 R 7 M 65 G 74 Y 62 B 80 K 25	藍鼠 G 78 R 70 M 57 G 100 Y 52 B 108 K 7
藤煤竹 G 75 R 74 M 69 G 71 Y 57 B 82 K 25	胡粉色 G 0 R 255 M 0 G 255 Y 2 B 252 K 0	銀鼠 G 25 R 200 M 19 G 199 Y 23 B 193 K 0
端色 G 52 R 138 M 39 G 147 Y 36 B 150 K 0	革色 G 79 R 67 M 63 G 63 Y 62 B 63 K 20	墨色 G 92 R 7 M 79 G 27 Y 73 B 31 K 65

Sample



Please see the images of a evening-of-age ceremony.

新春（春） （一月（三月））

◆◆◆◆◆
沈丁花
椿梅
福寿草
万两
千两



千両

Senryou

せんりょう

❖ 季節

【実】12～1月

❖ 文様の種類 代表例

雪持ち千両文様、縁起文様、吉祥文様

❖ 意味・謂れ

正月飾りに欠かせない縁起木のひとつ。文様に表されるのは主に実で、寒中に結実するところから吉祥の意味合いが強く、邪氣を払い、富を願う文様とされる。その富を思わせる名前から「千両」「万両」「蟻通し（別名：一両）」を組み合わせて飾ることにより、「千両も万両も年中有り通す」との縁起を担いで正月飾りにされる。江戸時代後期までは「仙藤」と表現された。別名「草珊瑚（くささんご）」ともいう。

❖ 用途

縁起物、和装全般、工芸、和雑貨、年賀状、正月飾り





万両

· Manryou ·

まんりょう

❖ 季節

【実】12～1月

❖ 文様の種類 代表例

雪持ち万両文様、縁起文様、吉祥文様

❖ 意味・語れ

千両とともに、文様には実を表現する。富を思わせる名前から、吉祥と財を願う意味合いのある、正月飾りに欠かせない縁起木のひとつ。赤い実が代表的だが、実が白い種類もある。文様には赤い実が好まれる。千両よりやや厚みのある葉が特徴。別名「薮橘（やぶたちばな）」。千両は葉より上に、万両は葉より下に実が多く付くため、実が軽い「千両」、実が重い「万両」と名付けられたとされる。

❖ 用途

縁起物、和装全般、工芸、和雑貨、年賀状、正月飾り





017_02



017_01



017_03



017_04



017_05

福寿草

・Fukujusou・

ふくじゅそう

❖ 季節

【花】2～3月

❖ 文様の種類 代表例

福寿草文様、南天福寿文様、吉祥文様

❖ 意味・諺れ

「元日草(がんじつそう)」や「朔日草(ついたちそう)」の別名を持ち、春を告げる花の代表である。旧暦の正月である2月頃に咲き、新年を祝うにふさわしい“幸福と長寿”の草花とされ、「福寿草」の名がついた。南天との組み合わせ『南天福寿』として、“難が転じて福となす”という意味合いの厄除けとして正月飾りに使われることがある。

❖ 用途

慶事用衣装、工芸、和雑貨、正月飾り





019_01



019_02



019_03



019_04



019_05



019_06



019_07



019_08

椿

Tsubaki

つ
ば
き

◆季節

【花】1～5月

◆文様の種類 代表例

（寒）椿文様、吉祥文様、椿紋、枝椿紋、遠州椿紋、椿尽くし紋、光琳椿紋、椿丸紋

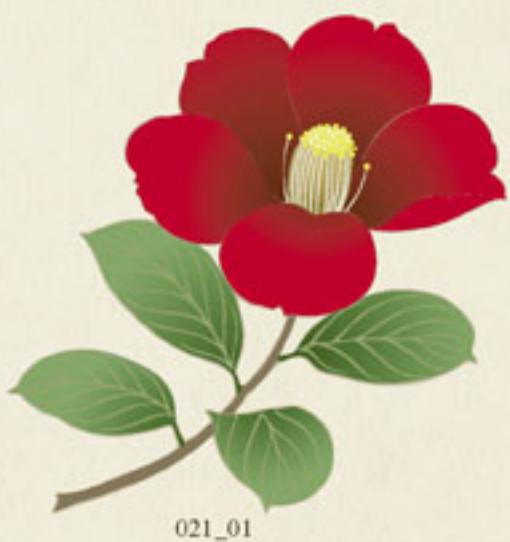
◆意味・謂れ

春の到来を告げる聖木として古くから好まれ、文様化されてきた。華やかで美しく、花の散る姿も潔よしと好まれたため染織品に多用され、能装束や辻が花文様に名品が残る。その一方で、花が首から落ちる様が不吉で武家には相応しくないことから、家紋や衣装の柄にはあまり使われなかつた。名前の由来は諸説あるが、落ちた花が刀の鍔（つば）に似ており、鍔の木で「つばき」となったとの謂れもある。江戸時代には椿が流行し、栽培とともにその種類は増え、文様も発展した。季節感を表すほか、吉祥の意味合いもある。

◆用途

和装全般、工芸、和雑貨、寒中見舞い（寒椿）





021_01



021_02



021_03



021_04



021_05



021_06



022_01

022_02



022_03

023_01

023_02

023_12

023_11

023_10

023_09

023_08

023_06

023_07

023_05



023_03



023_09



梅

U m e

うめ

◆ 季節

【花】2月

◆ 文様の種類 代表例

四君子文様、松竹梅文様、梅丸文様、檜梅文様、八重梅文様、雪持ち梅文様、梅鉢紋、裏梅紋、捻梅紋、光丸梅紋、加賀梅鉢、星梅鉢紋、結び梅紋、枝梅紋

◆ 意味・読み

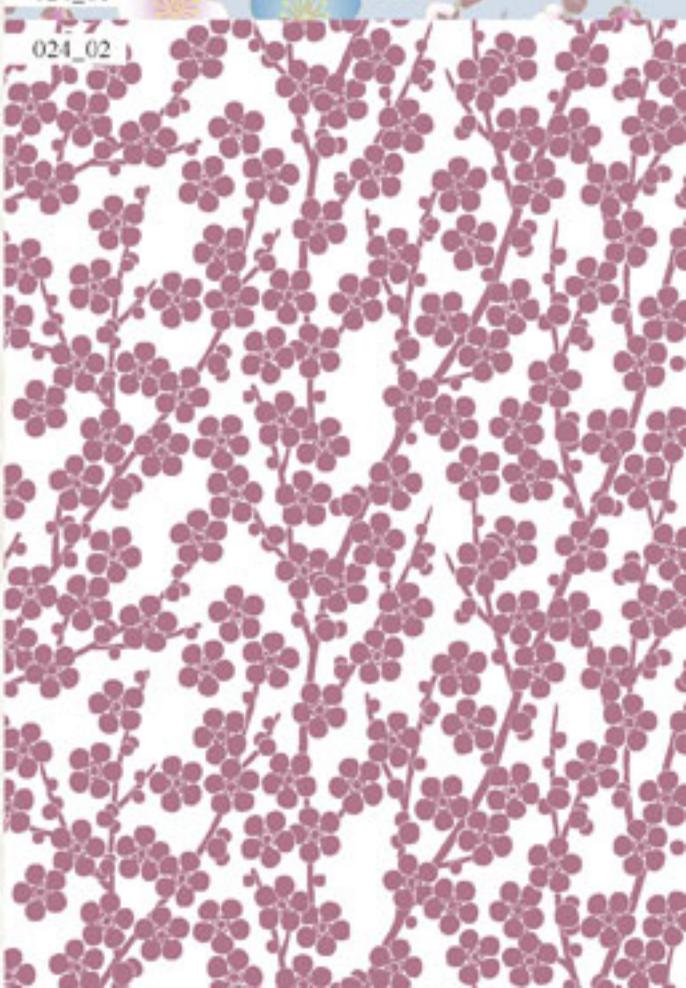
「歲寒三友（松竹梅）」「四君子（蘭竹梅菊）」のひとつ。意匠化されたものや花鳥風月との組み合わせなど、表現方法は多岐にわたり、着物の文様には欠かせない花。「百花のさきがけ」として春一番の象徴として使用されることが多い。愛らしい形、芳香、独特の枝振りが万葉集にも数多く詠われ、現代でも愛される文様となっている。好文木（こうぶんぱく）、春告草（はるつけぐさ）など、多数の呼び名があり、古来より日本人に親しまれてきた花木である。江戸時代以降、花見といえば桜の花とされているが、奈良時代以前に「花」といえば、むしろ「梅」を指すことの方が多いほど代表的な春の花であった。梅よりも桜が愛好されはじめるのは平安時代中頃からである。

◆ 用途

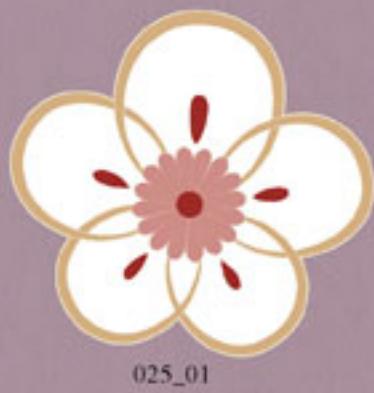
和装、婚礼衣装、芸能衣装、工芸、和雑貨、年賀状



024_01



024_02



025_01



025_02



025_03



025_04



025_05



025_06



025_07



025_08



025_09



025_10



025_11



025_12



025_13



025_14



025_15



025_16



025_17



025_18





027_01

沈丁花

・Jinchouge・

じんちょうげ

❖ 季節

【花】2～3月

❖ 文様の種類 代表例

沈丁花文様、沈丁花纹

❖ 意味・謡れ

春に咲く芳香の強い花の代表。茶の湯の席では禁花となっていたほど、花の美しさよりも香りが印象的な花とされてきた。香りは「沈香（じんこう）」に似ており、葉の形が「丁子（ちょうじ）」という植物に似ていることから「沈丁花」の名がついた。中国から日本に伝わったのは、室町時代と考えられている。赤く丸い果実をつけるが、有毒である。別名「輪丁花（りんちょうげ）」。

❖ 用途

春用衣装、工芸、和雑貨

※文様に用いられることは少ないが、

季節を表現する花として描かれることが稀にある。





029_01



029_03



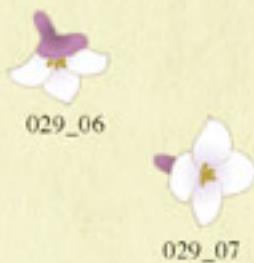
029_04



029_05



029_02



029_06



029_07

Sample



It is an image of pleasure of year!



春

(三月～四月)

堇
春蘭
木蓮
桃
辛夷
片桐
草薙

花弁吹寄せ
蕨
連翹
雪柳
木瓜柳
猫柳
土筆
蒲公英

桜

Sakura

さくら

◆ 季節

【花】3～4月 【文様】通年(意匠化されたもの)

◆ 文様の種類 代表例

一重桜文様、八重桜文様、枝垂れ桜文様、桜川文様、春秋文様、花筏文様、小桜紋

◆ 意味・読み

和柄の中でも代表的な文様の一つ。日本の国花。古くは「花」といえば「梅」のことであったが、平安時代以降、貴族たちに愛好されたことで多くの人に親しまれるようになり、桜が取って代わった。文様化されたのもその頃で、当初は桜文様といえば「山桜」を意匠化したものと指していた。その後、「八重桜」「枝垂れ桜」「桜川」「花筏」など、さまざまなモチーフの文様が創作された。しかし、文様として庶民一般に広まったのは江戸時代以降。1598年に秀吉が行った「醍醐の花見」以降、庶民にも「花見」は春のイベントとして欠かせないものとなったことがきっかけである。文様を大きく分類すると、「枝に咲く桜」「桜花」「花の散る様を惜しんで文様化されたもの」とに分けられる。

◆ 用途

和装全般、婚礼衣装、芸能衣装、工芸、和雑貨

※季節を問わず通年用いられる。

写実的に描かれたものは、春の季節を表現することが多い。



032_01



032_02



032_03



033_01



033_02



033_03



033_07



033_04



033_05



033_06



033_08



033_09



033_10



033_11



033_12



033_13



033_14



033_15



033_16



033_17



033_18



033_19



033_20





035_01

桜草

・Sakurasou・

さくらそう

❖ 季節

【花】4月

❖ 文様の種類 代表例

春草文様、桜草文様

❖ 意味・語れ

花の色も形も山桜と似ていることから、この名がつけられた。「我が國は草も桜を咲きにけり」という小林一茶の名句もある。日本各地に自生していた純日本産の古典園芸植物で、清楚で可憐な姿は日本人の国民性に寄り添う草花といえる。別名「日本桜草(にほんさくらそう)」。淨瑠璃の一流派である富本節の創始者は桜草を愛好し、桜草を家の定紋とした。転じて、「桜草」と言えば富本節のことを指すまで有名になった。

❖ 用途

春用衣装、工芸、和雑貨

※タンボボやスミレと組み合わせて春草文様として用いられることが多い。





片栗

-Katakuri-

かたくり

❖ 季節

【花】3～4月

❖ 文様の種類 代表例

春草文様、片栗文様

❖ 意味・謡れ

早春に咲き、初夏には枯れてしまう短命な姿が美しい。籠が傾いたような姿から別名「傾籠（かたかご）」となり、古くは「堅香子」とも表記された。万葉集にも詠まれた由緒ある春の花である。「片栗」の名は、食用にする根の鱗片が栗の片割れに似ていることからあてられた。その根から取れる本物の「片栗粉」は、薬効もある食物として古くは大変貴重なものであった。夜や雨の時は花が閉じる繊細さも持つ。

❖ 用途

和装、工芸、和雑貨





039_01



039_02



039_03



039_04



039_05

辛夷

Kobushi

こぶし

春
(三月～四月)

❖ 季節

【花】3～4月

❖ 文様の種類 代表例

辛夷文様、辛夷紋

❖ 意味・謡れ

北国では春を告げる自然の暦とされ、清楚でどこか物悲しい姿が愛されてきた。つぼみや実の形が握り拳に似ていることから、この名がついたとされる。たおやかで甘い香氣があり、辛夷の開花が田仕事始めの目安とされた。咲き誇る様がサクラと通じてか、東北地方では「田打(たうち)ザクラ」「種蒔(たねまき)ザクラ」の異名もある。木蓮とよく似ているが、開花時に花の下に葉があるのが「辛夷」である。別名「山蘭(やまあらぎ)」「辛夷椒(こぶしひじかみ)」。

❖ 用途

春用衣装、工芸、和雑貨





桃

Momo

も
も

◆ 季節

【花】3～4月 【実】7～8月

◆ 文様の種類 代表例

桃枝に貝文様、桃文様、枝包み桃紋、桃紋

◆ 意味・語れ

中国伝説に由来する吉祥文様。桃は邪氣を払う力を持つ靈木とされ、桃の木で作った弓や桃の枝で悪霊惡鬼を祓う風習があった。日本にもその風習が伝わり、同じく鬼祓いに用いられた。崑崙山中に棲む仙女・西王母が、3千年に一度だけ実が成るという桃の木を持っており、食べると不老不死になれるというその桃の実を漢の武帝に贈ったという『西王母伝説』もある。桃のお菓子を『西王母』と銘する由来である。花と実、双方とも美しく古くから文様に用いられる。特に実は、桃源郷のイメージから慶事に用いられることが多い。桃の木は鬼や邪を制圧する仙木とも考えられ、厄除と健康祈願のお祝いである三月の「桃の節句」で古くから馴染まれてきた。ちなみに三月三日は西王母の誕生日である。

◆ 用途

婚礼衣装、慶事用衣装、芸能衣装、和装、工芸、和雑貨

※一般的な着物には多用されないが、能装束や留袖などに見られる。





木蓮

Mokuren

もくれん

春
(三月～四月)

◆季節

【花】3～4月(白木蓮)、4～5月(紫木蓮)

◆文様の種類 代表例

木蓮文様

◆意味・縁れ

一般的に木蓮と呼ばれるのは濃紫色の花をつける、紫木蓮のこと。早春に白い花を咲かせるものが白木蓮である。文様には、どちらの種類も描かれるが、春の先駆けとして描かれることが多い。花の形が蓮(はす)に似ており、それが木に咲くことから「木蓮」と名づけられた。紫木蓮の別名は「木蘭(もくらん)」「木蓮華(もくれんげ)」。白木蓮の別名「白木蘭(はくもくらん)」「玉蘭(ぎょくらん)」「白蘭(びゃくらん)」。植物としては1億年以上も昔から変わらずに高貴で優雅な姿を保ち続けている。

◆用途

春用和装、工芸、和雑貨





春蘭

-Shunran-

しゅんらん

❖ 季節

【花】3～4月

❖ 文様の種類 代表例

竹と春蘭文様、四君子文様、春蘭丸紋

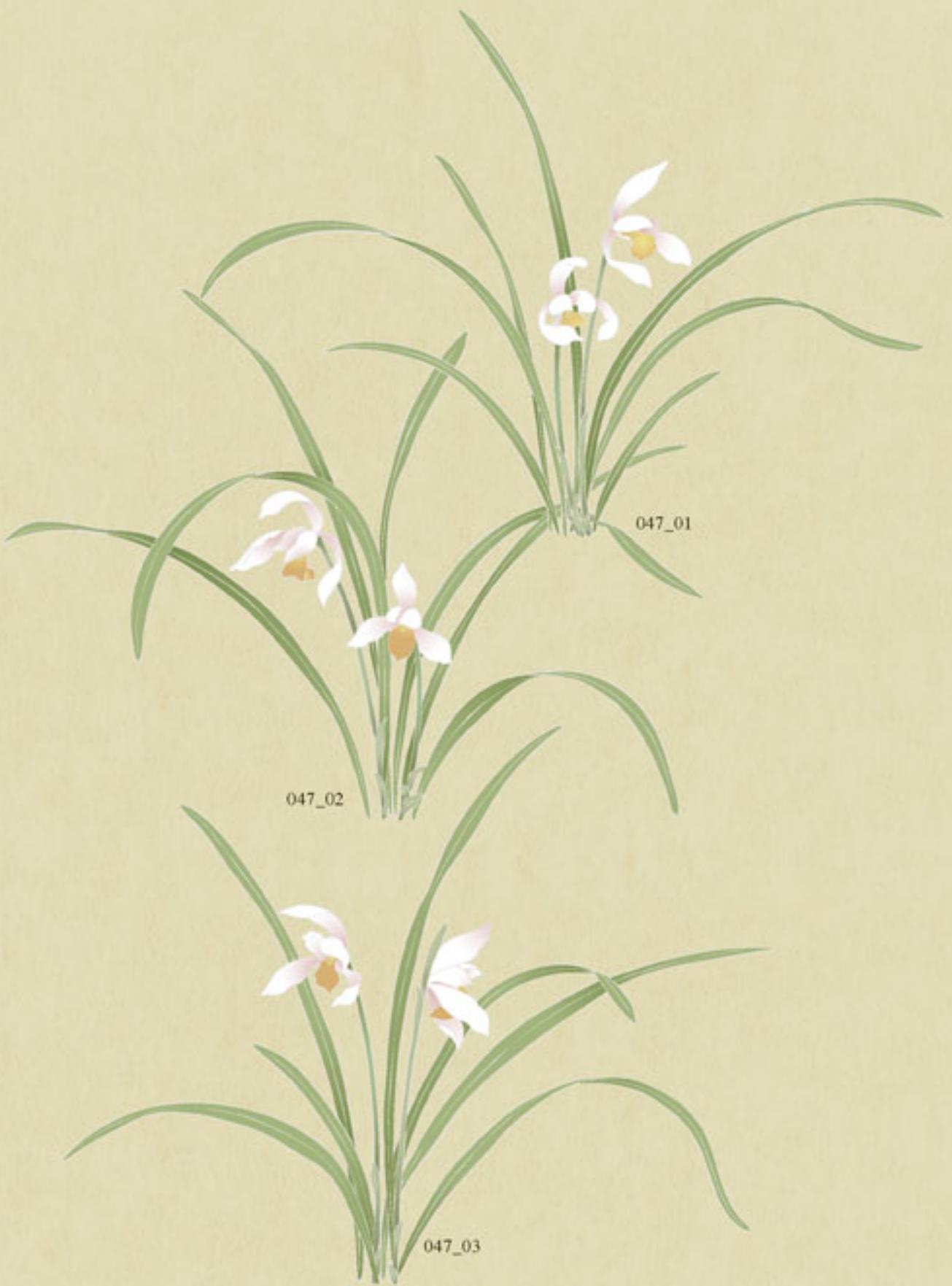
❖ 意味・諺れ

『四友(松竹梅蘭)』『四愛(菊蓮梅蘭)』『四君子(蘭竹梅菊)』のひとつ。現在では胡蝶蘭やカトレアなど無数の種類の蘭が存在するが、アジアの蘭の原種で着物文様としての蘭はこの春蘭が基本。瑞花(豊年の兆しとなるめでたい花)として文様に用いられてきた。別名「じじばば」。花姿の上の部分が老婆の頭にかぶる“頬被り”、下の方が老人の“白髭”に見えることから。

❖ 用途

慶事用衣装、春用和装、工芸、和雑貨





堇

Sumire

すみれ

春
(三月～四月)

❖ 季節

【花】3～5月

❖ 文様の種類 代表例

堇文様

❖ 意味・諺れ

万葉集にも詠まれた、古くから愛される可憐な春の花。日本人も古来、堇を摘んでおひたしなどで食していた。その「摘み入れ」の様子が音韻変化して「すみれ」となったとされる説や、花の形が「墨入れ」に似ていることから、などの説がある。別名「墨入れ(すみいれ)」「相撲取草(すもうとりぐさ)」。西洋では薔薇や百合とともに花の中でも最高位とされ、ヴィーナスや聖母マリアに捧げられる。パンジーなどの西洋の堇が日本に伝わったのは19世紀半ば頃で、明治維新を経験した日本人が舶来の象徴の一つとして和雑貨にも数多く描かれた。

❖ 用途

春用和装、工芸、和雑貨



048_01

048_02



049_01



049_02



049_06



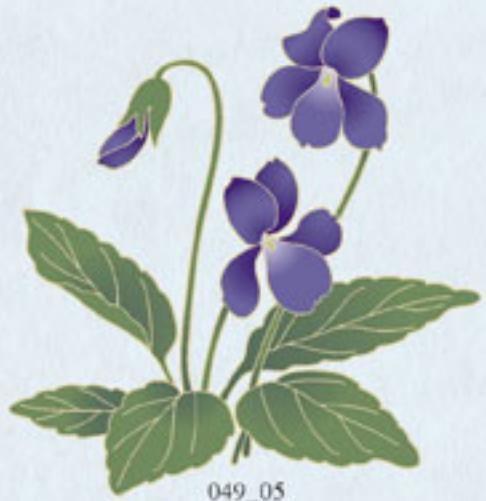
049_07



049_03



049_04



049_05

蒲公英

· Tanpopo ·

たんぽぽ

◆ 季節

【花】3～5月

◆ 文様の種類 代表例

春草文様、蒲公英紋

◆ 意味・語れ

花の形が鼓面に似ている等の諸説から、別名「鼓草(つづみぐさ)」とも言われ、春草の一つとして文様に用いられる。別名にちなんで、楽器の鼓と取り合わせて描かれることがある。蒲公英の語源は「たん、ほん、ほん」と鳴る鼓の音に準えたという説や、種子である白い冠毛を「ほほ」と呼び、「田菜ほほ」が訛って「たんぽぽ」になったなど、諸説ある。

◆ 用途

春用和装、工芸、和雑貨

※他の春草と組み合わせて用いられることが多い。





051_01



051_02



051_03

土筆

・Tsukushi・

つ
み
し

❖ 季節

【胞子茎】3～4月

❖ 文様の種類 代表例

早春文様、春草文様、土筆紋

❖ 意味・謡れ

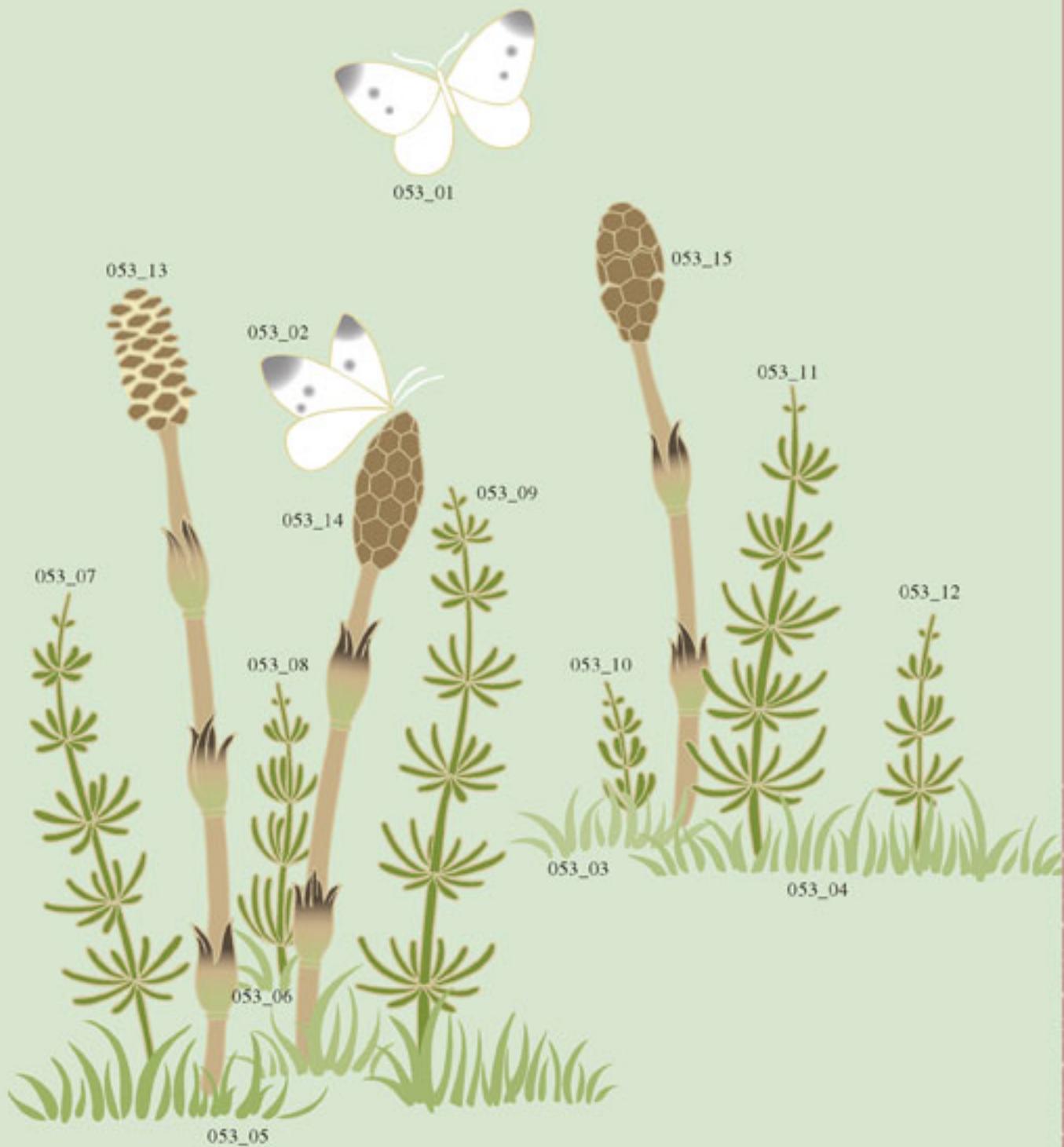
その素朴な姿は古くから春の風物詩として親しまれ、代表的な春の季語でもある。早春の田畠や土手に生え、芽を出す杉菜(すぎな)の胞子茎が「土筆」となる。杉菜のすぐ間に生えるので「付く子」「離く子」となり、つくしと呼ばれ、土に筆がささったように見えることから「土筆」の字があてられた、などの説もある。

❖ 用途

春用和装、工芸、和雑貨

※春草文様の一つとして他の春草と組み合わせて用いられることが多い。





猫柳

・Nekoyanagi・

ねこやなぎ

❖ 季節

【花】3～4月

❖ 文様の種類 代表例

早春文様、猫柳文様

❖ 意味・謡れ

柳の木枝は初夏から夏の文様として用いられるが、猫柳は春の先駆けを表す。蕾が開いたばかりの早春の頃はまさに猫の尻尾が枝先についたように見え、柳の一種であることからも「猫柳」の名がつけられた。また、この名がついたのは明治時代になってからで、それ以前は「川柳」と呼ばれていた。別名もユニークで「狗尾柳（えのころやなぎ）」といい、犬が小屋から尻尾のみを出した様を表している。

❖ 用途

春用和装、工芸、和雑貨

※柳や桜等と組み合わせて用いられることが多い。



054_01

054_02





木瓜

Boke

ぼけ

◆季節

【花】3～4月

◆文様の種類 代表例

木瓜文様

◆意味・語れ

実が瓜に似ており、木になる瓜で「木瓜（もけ）」と呼ばれたものが「ぼけ」に転訛したとも、「木瓜（ぼくくわ）」から「ぼけ」に転訛したとも言われる。原産地は中国。同じ当て字の家紋「木瓜紋（もっこうもん）」があるが、この家紋は鳥の巣を表現したという説や、瓜を輪切りにした形とされることから「木瓜（ぼけ）」はこの家紋の起源としては一説としかとらえられていない。

◆用途

春夏用和装、工芸、和雑貨





雪柳

・Yukiyanagi・

ゆきやなぎ

❖ 季節

【花】4月

❖ 文様の種類 代表例

雪柳文様

❖ 意味・語れ

葉は細長く、枝は弓なりに垂れ、花の最盛期には木全体が白い花に覆われる。この姿が柳に雪が積もったように見えることから、雪柳と呼ばれる。花が散った後も地面に雪が積もったように見え、美しい。別名「小米花(こごめばな)」。小花を米に見立てたとされる。

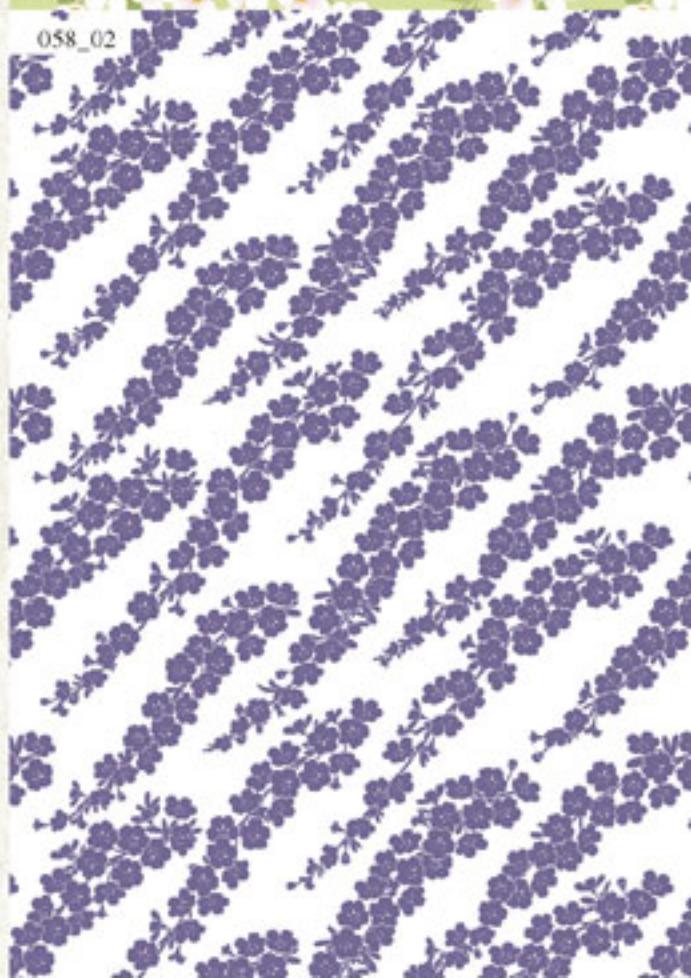
❖ 用途

春用和装、工芸、和雑貨



058_01

058_02





連翹

Rengyou

れんきょう

◆季節

【花】3～4月

◆文様の種類 代表例

連翹文様、正親町連翹紋、戸田連翹紋、連翹桺紋

◆意味・語れ

中国では「連翹」といえば「巴草(ともえそう)」のことであるが、日本では漢方薬だった巴草の果実と称して、連翹の実が出回ったことから間違ってこの名が定着してしまったとされる。日本への渡来は古く、平安時代の著名な書物にも連翹の名前が見られる。家紋としては公家の藤原公季流の一族の代表紋とされる。連翹紋は古い紋帳では丁子紋として紹介されている点から、丁子紋が祖型となっているという説もある。

◆用途

春用和装、工芸、和雑貨



060_01



060_02



蕨

Warabi

わらび

春
(三月～四月)

❖ 季節

【新芽】4月

❖ 文様の種類 代表例

春草文様、早蕨紋、山菜紋

❖ 意味・謡れ

先端がくるくると巻いた若い芽(早蕨)が食用となる、代表的な山菜のひとつ。新芽の色が、焼いた薺に似ていることからこの名がついたとされる。文様としてはあまり一般的ではないが、江戸時代、琳派では好まれて意匠に使われた。蕨の類は太古の昔から存在する植物で、日本の一都古墳から発掘された器物の中に「蕨手(わらびて)文様」が描かれたものがある。「蕨手」は蕨の形に似た渦巻状の文様で、蕨を元にした文様とされている呪術的な図文と考えられている。

❖ 用途

春用和装、工芸、和雑貨



062_01

062_02





063_01



063_04



063_03

花弁吹寄せ

・Hanabira Fukiyose・

はなびら
ふきよせ

❖ 季節

【花弁】3～4月

❖ 文様の種類 代表例

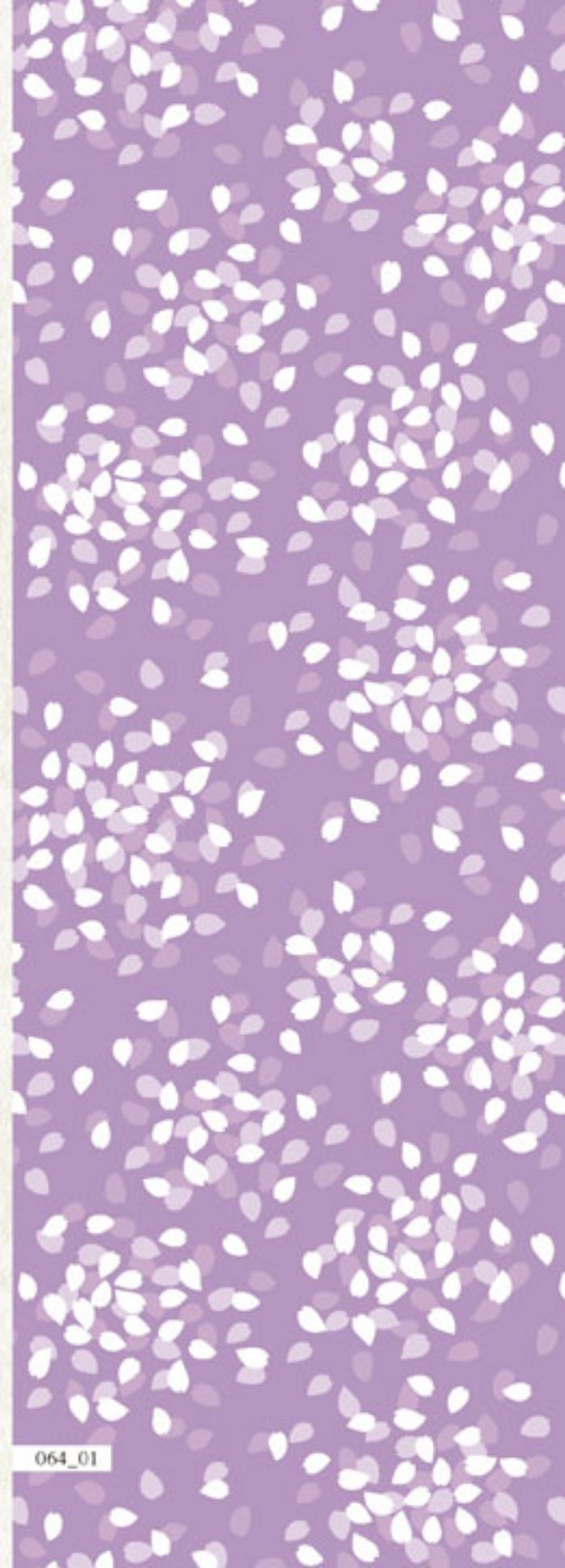
花弁吹寄せ文様

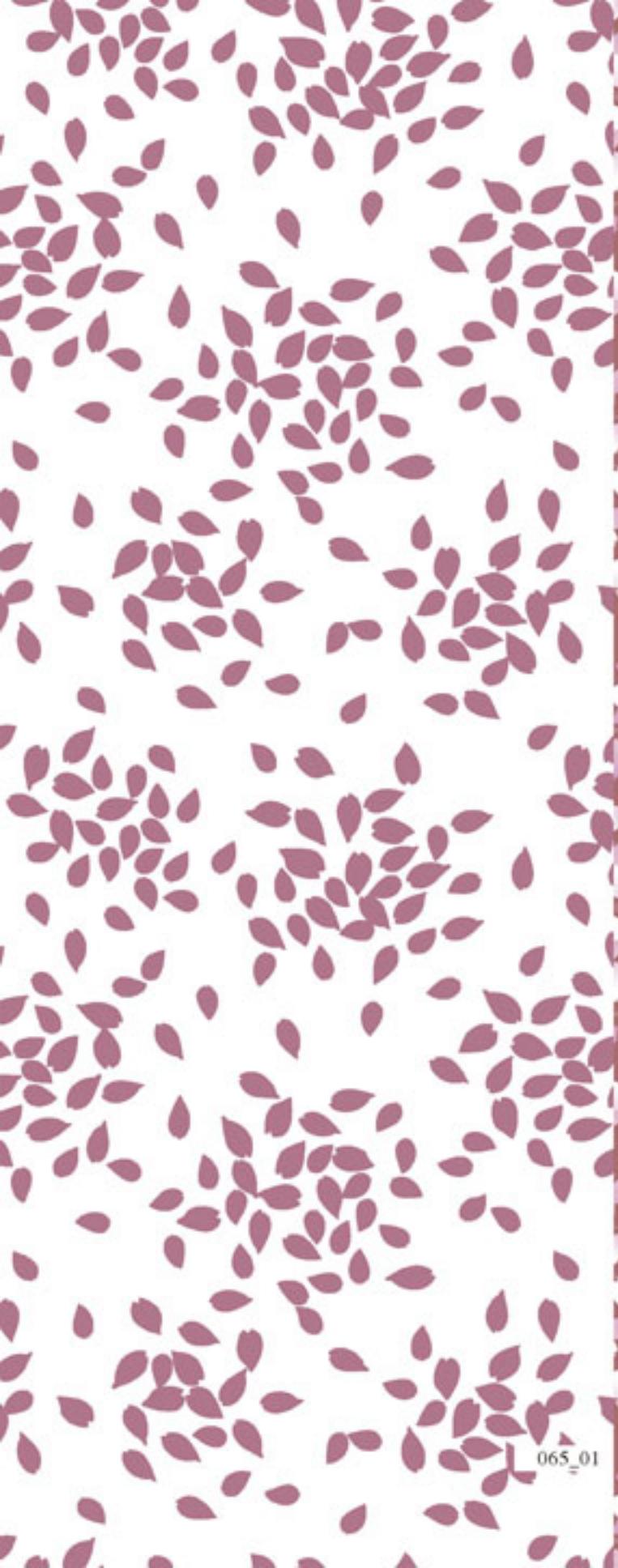
❖ 意味・趣れ

桜の花弁が風に舞い散り、吹き寄せられる様を描いた。春の季節感を色濃く表す表現のひとつとして、古くから文様に取り入れられている。日本ならではの情緒ある風景を表現した意匠のひとつ。

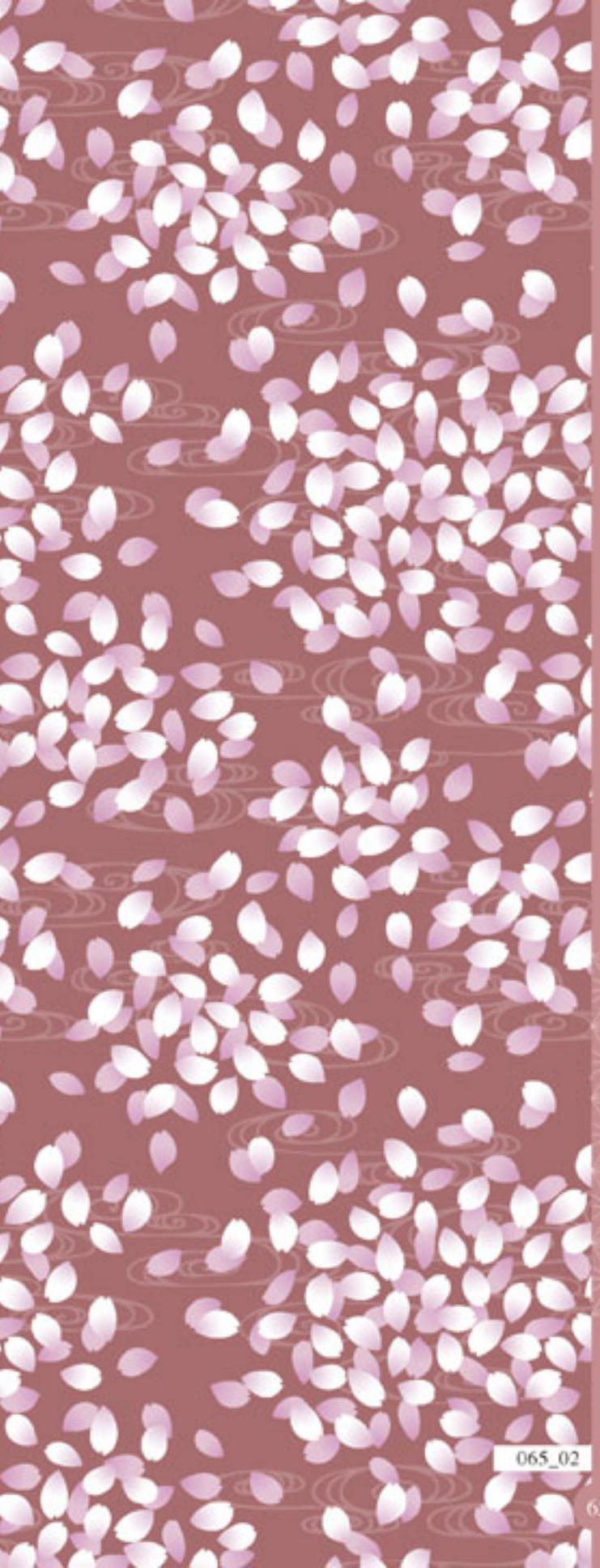
❖ 用途

和装全般、工芸、和雑貨





065_01



065_02

Sample



It is an image of cherry blossom viewing.

春～初夏

(四月～六月)

◆◆◆◆◆◆◆◆
菖蒲 鈴蘭 紫陽花 藤 杜丹 桃杷 杏 芎環 杜若

◆◆◆◆◆◆◆◆
車月 薔薇 石楠花 腳踏 花菖蒲 花米本 一人靜 水芭蕉

◆◆◆◆◆◆◆◆
山吹 蓬萊草 勿忘草 萍 萍 荷 荷 荷 荷

菖蒲

Ayame

あやめ

❖ 季節

【花】4～5月

❖ 文様の種類 代表例

御所解文様、菖蒲紋、菖蒲丸紋

❖ 意味・謡れ

「菖蒲(あやめ)」「杜若(かきつばた)」「花菖蒲(はなしょうぶ)」は姿形がよく似ていることから、間違えられやすく、混同して呼んだ時期があったと考えられる。また、植物学的に「あやめ」には「文目」の字があてられ、「菖蒲」の字は「しょうぶ」という別の植物のことを指す。しかし、和柄では「あやめ」には「菖蒲」の表記が一般的である。このような経緯から、「あやめ」である「菖蒲」を「しょうぶ」と読ませ、「勝負」「勝武」「尚武」に通じて、長寿のまじないや魔除けの意として用いられた。現在でも端午の節句に「あやめ」の意匠を用いることがあるのはその名残。同じ祝いの習慣である菖蒲湯は「しょうぶ」の葉である。

❖ 用途

夏用和装、工芸、和雑貨、暑中見舞い





鈴蘭

Suzuran

すずらん

❖ 季節

【花】4～6月

❖ 文様の種類 代表例

鈴蘭文様、春草文様、鈴蘭丸紋

❖ 意味・謡れ

さりげなく可愛らしい様子が文様でも表現される。釣り鐘形の小花が垂れ下がって咲く姿が鈴のように見え、葉が蘭の葉に似ていることからこの名がついた。とても美しいが有毒である。そのため、野に咲いても動物に食べられず、長く咲き続けられる。その可憐な姿から、特に大正時代以降多用されるようになった。

❖ 用途

和装、工芸、和雑貨





紫陽花

Ajisai

あじさい

◆季節

【花】6～7月

◆文様の種類 代表例

紫陽花文様、紫陽花纹紋、紫陽花丸紋

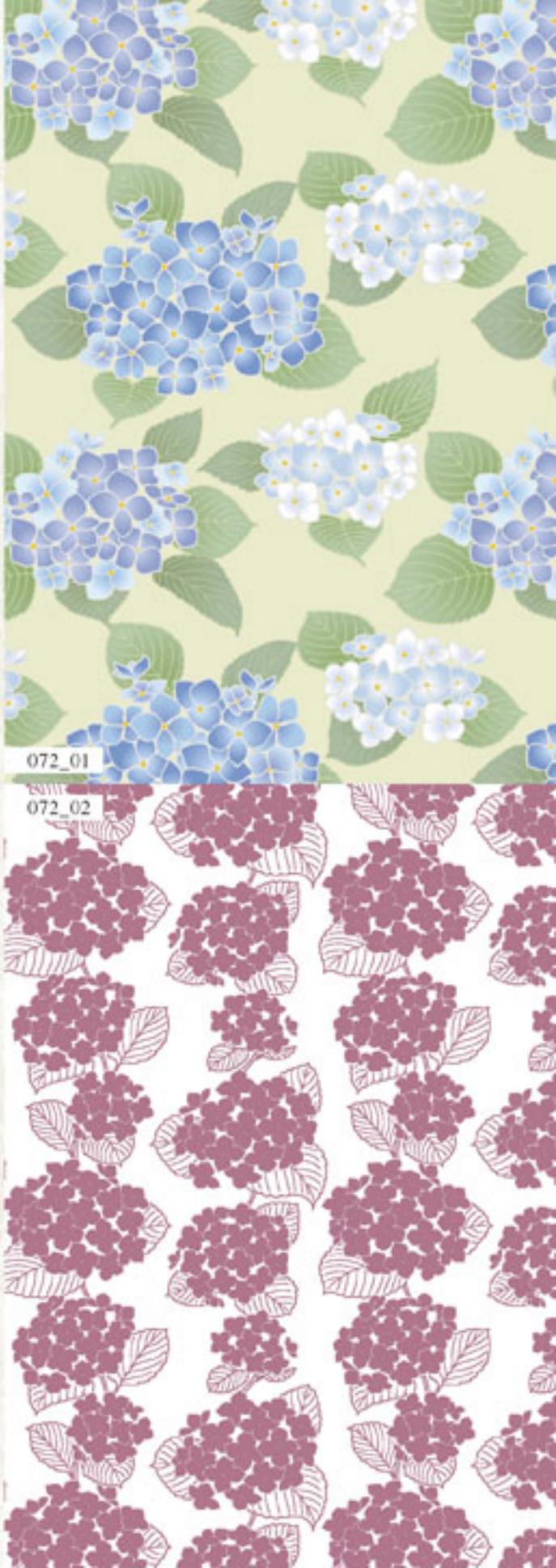
◆意味・語れ

梅雨から盛夏の時期に咲き、万葉集にも詠まれているほど、古くから愛でられている。江戸時代以降、文様として多用された。幾重にも重なる花びらで「繁榮」を表現している。有毒なことが関係してか古くは描かれることが少なかったが、琳派の作家によって多種多様に意匠化され陶磁器や蒔絵などの工芸品に施された。日本原産の花であり、本来「紫陽花」の字は、唐の詩人である白居易が命名した別の紫の花のことである。平安時代、学者である源順（みなもとのしたごう）が、この字をあてたため誤用が広まったとされている。

◆用途

夏用衣装、工芸、和雑貨、暑中見舞い

※浴衣や普段使いの着物などに用いられることが多い。





073_01



073_02

藤

F u j i

ふじ

❖ 季節

【花】4～5月

❖ 文様の種類 代表例

上り藤文様、下り藤文様、藤文様、藤唐草文様、
藤立涌紋、藤丸紋、八つ藤紋、巴藤紋、藤蝶花菱紋、
藤菱紋

❖ 意味・語れ

春の終わり頃、美しい花房を下げる様が古くから愛された。また、長寿で繁殖力が強いため、平安時代の藤原氏の全盛の頃から家紋として用いた。その後、その隆盛にあやかって文様化が盛んになり、有職紋(※)としても完成した。その種類は多岐に渡り、家紋などの紋章も50種類以上と言われている。(垂れ下がる花の形から『成り下がり』を連想させるとして、敬遠された時期もあった。)

❖ 用途

芸能衣装、和装、婚礼衣装、工芸、和雑貨

※有職紋

平安時代以降、公家の邸宅の調度、服裝、典車などの裝飾に用いられた文様の總称。古典文様で、現在も使われているものが多く、主なものに小葵紋、唐草紋、葵紋、亀甲紋、七宝紋、立滌紋等がある。





075_01



075_02



075_03



075_04



075_07



075_08



075_05



075_09



075_06



075_10

牡丹

Botan

ぼたん

◆季節

【花】4～5月（寒牡丹は12～1月）

◆文様の種類 代表例

変わり牡丹文様、流水に牡丹文様、蟹牡丹紋、
牡丹の丸紋、唐獅子牡丹紋、牡丹寄せ紋、牡丹枝紋

◆意味・語れ

奈良時代に日本に伝わり、鎌倉時代には摂関家（公家の最上家とされる）専用のように使われた。江戸時代には花の栽培が盛んになり、文様としても一般的に広く普及した。その姿が豪華なことから「百花の王」とも称される。さまざまな文様に意匠化され、室町時代の名物製の牡丹唐草紋や蟹牡丹紋は特に有名。その他の文様の種類も多く、紋章にも多数存在する。その内容は意匠化されたものから写実的なものまで幅広く、今日まで着物の図柄としては、なくてはならない花素材のひとつである。

◆用途

和装、芸能衣装、挙式衣装、工芸、和雑貨

＊基本的に春の花だが、暖（こも）で守った花を冬に用いることもある。



076_01



076_02



077_01



077_02



077_03



077_04



077_05



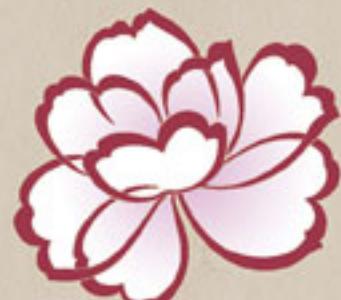
077_06



077_07



078_01



078_02



078_03



078_04



078_05



078_06



枇杷

Biwa

び
わ

◆季節

【花】11～12月 【実】6月

◆文様の種類 代表例

枇杷文様、枝付き枇杷文様、実尽くし文様

◆意味・謡れ

葉または実の形が楽器の琵琶に似ていたためにこの名になったといわれる。枇杷は古来より、葉・実・種のすべてが薬用になることから、その効用に対する信仰もあって文様とされた。多くの実をつけた枝の形で文様化される。文様としては縁起のよい結実柄が多用される。

◆用途

和装、工芸、雑貨

＊文様としては縁起のよい結実柄として用いられることが多い。





081_01



081_02



081_03

杏

Anzu

あんず

◆季節

【花】3～4月 【実】6～7月

◆文様の種類 代表例

実尽くし文様、杏紋

◆意味・語れ

杏は春に桜と似た可愛らしい花を咲かせるが、和柄では主に初夏に成る実が描かれる。奈良時代以前に梅とともに中国から渡来。かつては「加良毛毛(からもも)」と呼ばれていたが、江戸時代に漢名の「杏子」を音読みし、「あんず」と呼ばれるようになった。別名「寿星桃(じゅせいとう)」。

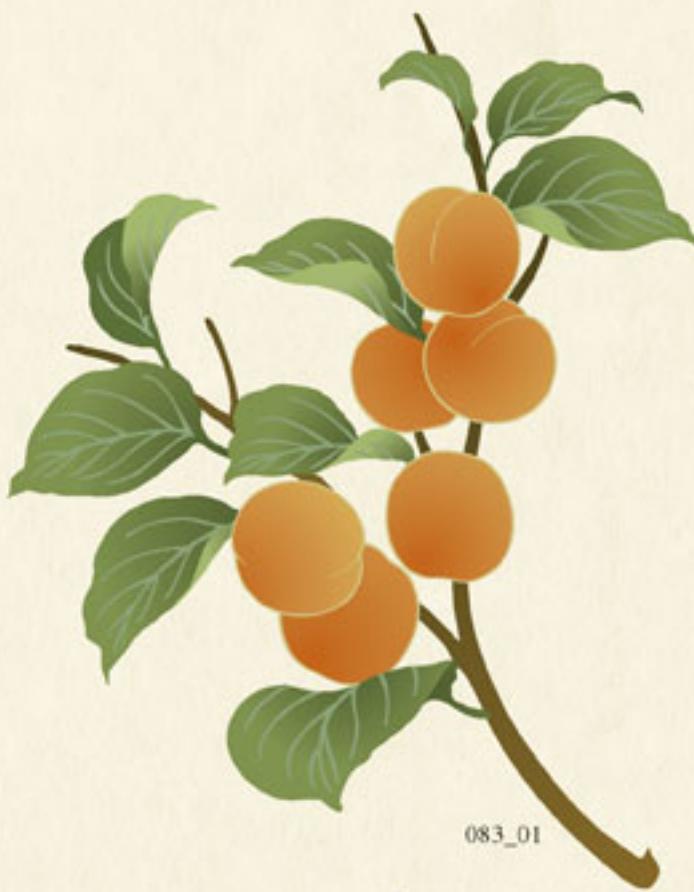
◆用途

春用衣装、工芸、和雑貨

単体で描かれることは少なく、

他の果実と合わせて『実尽くし文様』として用いられることが多い。





苧環

・Odamaki・

おだまき

❖ 季節

【花】5月

❖ 文様の種類 代表例

苧環紋

❖ 意味・謡れ

麻糸を巻く小道具である「苧手巻(おだまき)」に花姿が似ていることからこの名がついた。よって「苧手巻」とも書く。いかにも日本的な風雅な趣がある花姿が特徴。

❖ 用途

春用衣装、工芸、雑貨

※文様として用いられることは少ない。





085_01



085_02



085_03

杜若

・Kakitsubata・

かきつばた

❖ 季節

【花】5～6月

❖ 文様の種類 代表例

流水に八つ橋文様、八つ橋文様、八橋図地紙文様、
杜若紋、茶や辻文様

❖ 意味・読み

アヤメ科の植物で「燕子花」とも書く。「いづれ菖蒲(あやめ)か杜若」といわれるよう、「菖蒲(あやめ)」「杜若」「花菖蒲(はなしょうぶ)」はよく似ており、染織品でも混同されることが多い。平安時代から文様として好まれ、染織品の図柄として愛されてきた。湿地に咲くことから、水とともに表現されることが多い。単独で用いれば晩春から初夏の頃を表現するが、他の草花と組み合わせて四季の花として表現されることもある。江戸時代の尾形光琳の『燕子花図屏風』は特に有名。

❖ 用途

夏用衣装、工芸、和雑貨、暑中見舞い





皐月

-Satsuki-

さつき

❖ 季節

【花】5～6月

❖ 文様の種類 代表例

皐月文様、皐月紋

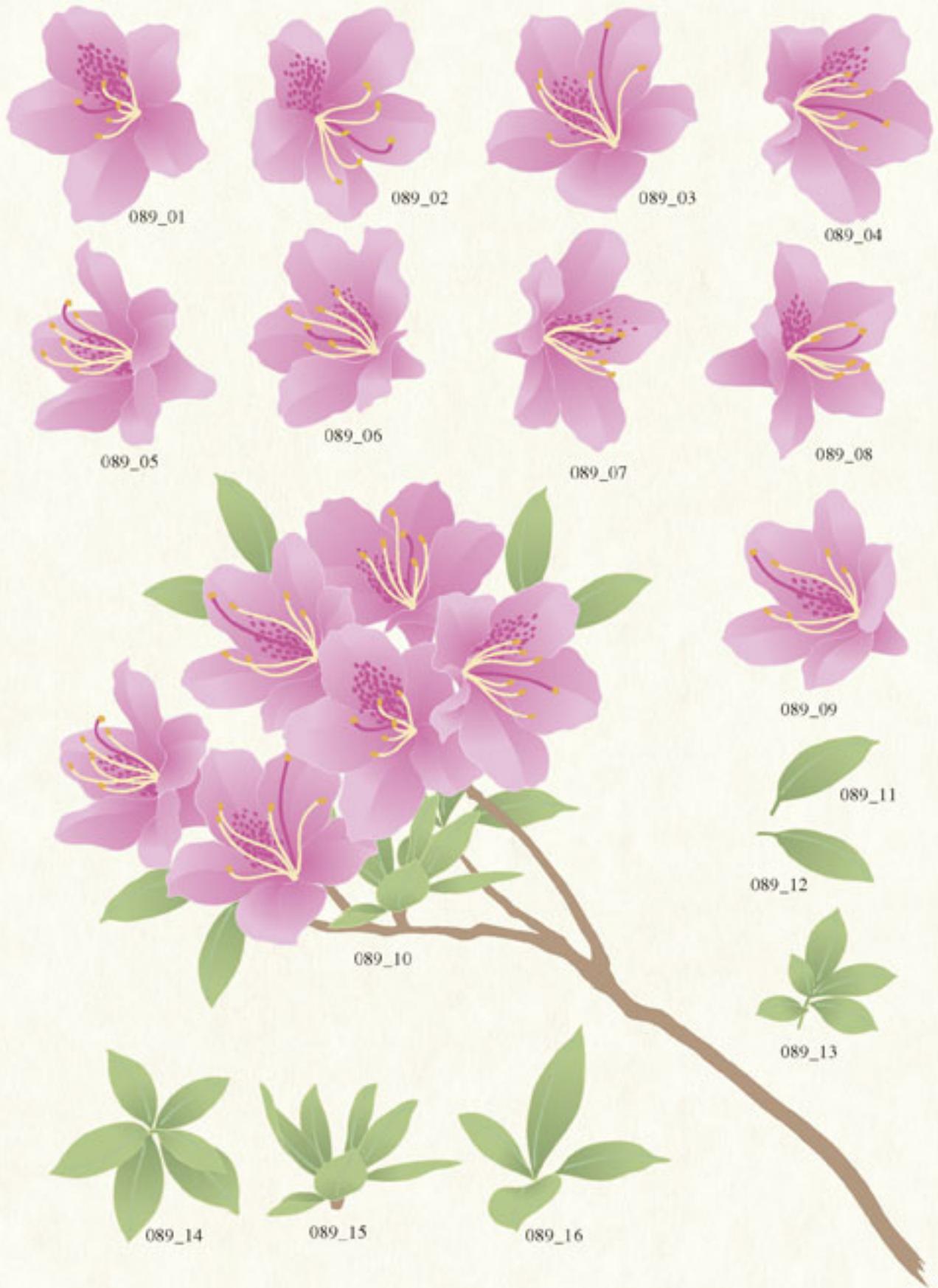
❖ 意味・諺れ

旧暦の5月に咲くことから「皐月」と名付けられた。「皐月躑躅(さつきつつじ)」を省略して「皐月」と呼ばれる。杜鵑(ほととぎす)が咲く5月頃に咲くので「杜鵑花」とも書く。季節感が違うため、躑躅(つつじ)とは区別されるが植物学的には躑躅の一品種。躑躅と見分け難いが、花は躑躅より遅く、名前の如く5月頃に咲く。一般的に枝先に朱赤色または紅紫色の花を付けるが、多数の品種があり、さまざまな色合いでどれも美しい。

❖ 用途

春夏用衣装、工芸、和雑貨





著莪

・Shaga・

し
や
が

❖ 季節

【花】5～6月

❖ 文様の種類 代表例

著莪文様

❖ 意味・謡れ

花は短命で一日でしほんでしまうが、次々と新しい花を咲かせる生命力の強さを持つ。別名「胡蝶花(こちょうか)」。「シャガ」の名は、檜扇(ひおうぎ)の漢名の「射干」を音読みしてつけられたが、中国では「射干」は「ヒオウギ」を指し、「シャガ」は「胡蝶花」と書くので留意したい。「著莪」は特に江戸時代頃、「檜扇」と混同して認識されていたような記述が多い。近年は夏用の和服柄にしばしば見られる。

❖ 用途

春夏用衣装、工芸、雑貨

※文様として用いられることは少ない。





091_01



091_02

石楠花

・Shakunage・

しゃくなげ

◆季節

【花】4～5月

◆文様の種類 代表例

石楠花纹様

◆意味・語れ

初夏の頃に、枝先に「躑躅(つつじ)」に似た花を咲かせる。細長い葉が特徴。「躑躅」との区別の定義が難しいとされている。漢字の「石楠花」は中国産の別種だが、誤ってこれを用いて「しゃくなげ」となり、次第に「しゃくなげ」になった(「石楠花」は漢名)。また、背丈が低い一部の種から、「尺なし(しゃくなじ)」の音が変化して「シャクナゲ」になったとの説もある。江戸時代、有田焼の絵付け等の柄にも好まれた。

◆用途

春夏用衣装、工芸、和雑貨





躑躅

-Tsutsuji-

つ
つ
じ

❖ 季節

【花】4～5月

❖ 文様の種類 代表例

躑躅文様、五葉躑躅紋

❖ 意味・謡れ

古くは桜と同格に扱われ、平安貴族にも愛された盛春の花。古くから自生・栽培され、日本人に最も親しまれている植物のひとつといえる。万葉集の時代から親しまれており、花が連なって咲くことから「つづき」、また花が筒状であることから「つつ」などと呼ばれていて、次第に「つつじ」になったと言われている。

❖ 用途

春用衣装、工芸、和雑貨

※「五葉躑躅」は、その葉が5枚あるところからその名前が付いた。
日本の染織文様のはほとんどはこの「五葉躑躅」を固定化している。





花海棠

・Hanakaidou・

はなかいどう

❖ 季節

【花】4～5月

❖ 文様の種類 代表例

春草文様、海棠紋

❖ 意味・謡れ

桜に続いて咲く春の代表花。その美しさから美女を連想させ、かの楊貴妃の眠そうな姿の美しさを、玄宗皇帝がこの花に例えたことから「睡花」の別名もある。花が長く垂れることから「垂枝海棠（すいしかいどう）」とも呼ばれる。中国から日本に渡来し「東洋の名花」と謳われた。「花海棠」よりも前に渡来した、実の大きな「実海棠（みかいどう）」に対して、花が美しいので「花海棠」と命名されたと言われている。中国では「牡丹（ぼたん）」とともに最も愛好される。

❖ 用途

春用和装、工芸、和雑貨



096_01



096_02



097_01



097_02



097_03



097_04



097_05

花菖蒲

・Hanashobu・

はなしょぶ

❖ 季節

【花】5～6月

❖ 文様の種類 代表例

茶屋辻文様、菖蒲紋、觀世水に花菖蒲紋

❖ 意味・謡れ

武士の甲冑の装飾に用いられるなど、靈験を期待して用いられる聖なる花とされていた。「花菖蒲（はなしょぶ）」は古来「あやめ」と呼ばれており、「菖蒲（あやめ）」と大変紛らわしかったとされる。どれも優れていて選択に迷うという意味も含め、「源平対盛記」に「五月雨に沼の石垣水こえていざれがあやめ引きぞわづらう」という歌が詠まれたのは有名。葵が菖蒲（しょうぶ）に似ていて美しい花が咲くことから「花菖蒲」となったが、菖蒲（しょうぶ）とは別物なので留意したい。

❖ 用途

夏用衣装、婚礼衣装、工芸品、和雑貨



098_01

098_02





花水木

・Hanamizuki・

はなみずき

❖ 季節

【花】4～5月 【実】10月

❖ 文様の種類 代表例

花水木文様

❖ 意味・謡れ

アメリカへ「桜」(ソメイヨシノ)を贈った返礼として明治時代(1915年)に日本へ贈られた。外来種であるが、日本の春の花として定着した。桜と入れ替わるように咲き、秋にも見事な紅葉と実をつける。「山法師(やまほうし)」に似ていることから、アメリカから寄贈されたばかりの頃は「アメリカ山法師(あめりかやまほうし)」と呼ばれ、それが別名となつた。

❖ 用途

春夏用和装、工芸、和雑貨





一人静

Hitorishizuka

ひとりしづか

❖ 季節

【花】4～5月

❖ 文様の種類 代表例

一人静文様、春草文様

❖ 意味・謡れ

春にひっそりと咲く野の花。源義経が寵愛した静御前が、一人で義経を想びながら舞う姿に準えてこの名がついたとされる。別名「吉野静（よしのしづか）」「吉野御前（よしのごぜん）」「眉掃草（まゆはきそう）」。

❖ 用途

春用和装、工芸、和雑貨

※他の野草や草花と組み合わせて用いられる場合が多い。





水芭蕉

・Mizubasho・

みずばしょう

❖ 季節

【花】4～6月

❖ 文様の種類 代表例

水芭蕉文様、夏草文様

❖ 意味・謡れ

地域によっては4月上旬頃に咲く春の花だが、6月上旬頃に咲くため一般的に夏の花とされている。水辺に咲き、花の後に大きく育つ葉の様子が芭蕉の葉に似ていることからこの名がついた。別名「觀音蓮（かんのんはす）」。

❖ 用途

夏用和装、団扇、扇子、工芸、和雑貨、暑中見舞い





山吹

・Yamabuki・

やまぶき

❖ 季節

【花】4～5月

❖ 文様の種類 代表例

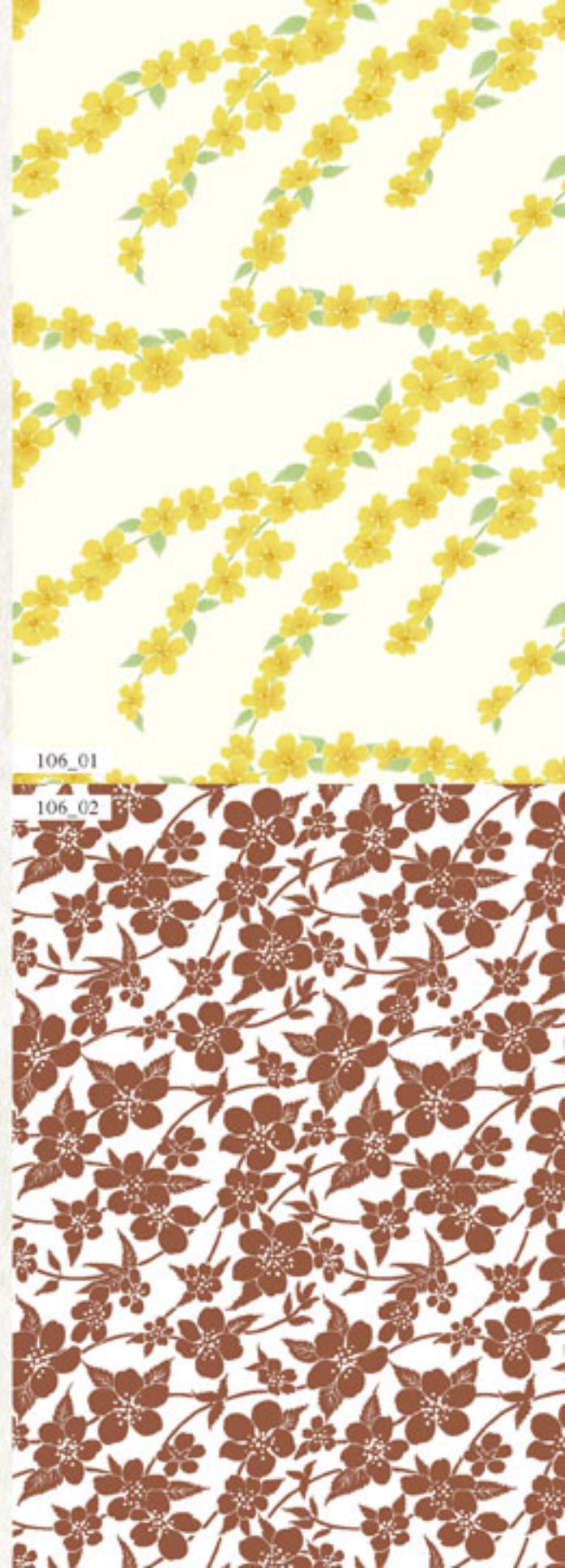
山吹文様、山吹紋

❖ 意味・謡れ

晩春の頃、山間の谷川に自生する日本原産の花。明るい色彩と控えめで可憐な姿が、古く万葉の頃から愛されてきた。「山吹色」の語源となった。名前はしなやかな枝が風に吹かれて揺れる様から「山振り(やまぶり)」となり、それが転訛して「やまぶき」となったという説や、山に生え、露(ふき)に似て花の色が黄金で美しいことから「やまぶき」になったという説などがある。

❖ 用途

春用和装、工芸、和雑貨





蓮華草

· Rengesou ·

れんげそう

❖ 季節

【花】4～5月

❖ 文様の種類 代表例

蓮華草文様、蓮華草紋、春草紋

❖ 意味・謡れ

古くに中国から渡来し、日本に根付いたとされる。輪状に咲いた花が蓮の花のように見えることからこの名がついた。別名「紫雲英(げんげ)」。「げんげ」は「れんげそう」の転訛。花が一面に咲いているのを遠くから見ると、低くたなびく紫の雲のように見えることからの名前。一昔前まで、「紫雲英(げんげばたけ)」は春の風物詩であった。

❖ 用途

春用和装、工芸、和雑貨



108_01

108_02





勿忘草

·Wasurenagusa·

わすれなぐさ

❖ 季節

【花】4~6月

❖ 文様の種類 代表例

春草文様、勿忘草紋

❖ 意味・謡れ

春から初夏に可憐な花を咲かせる。明治時代に日本に伝わった外来種。ドイツに古くから伝わる悲恋物語で、恋人のために水辺に咲く花を摘もうとして急流に落ちた騎士が「私を忘れないで」と最期の言葉を残したことが名前の由来。英名である「Forget me not」の直訳から「勿忘草」となった。北原白秋が歌に詠んだことで、大正時代に流行した。

❖ 用途

春用和装、工芸、和雑貨





111_09

111_10



111_11



111_11



111_07



葵

Aoi

あおい

◆季節

【新緑】7月

◆文様の種類 代表例

葵文様、葵紋、二葉葵紋、三つ葉葵紋、葵丸紋、立葵紋、
葵唐草紋、葵巴紋

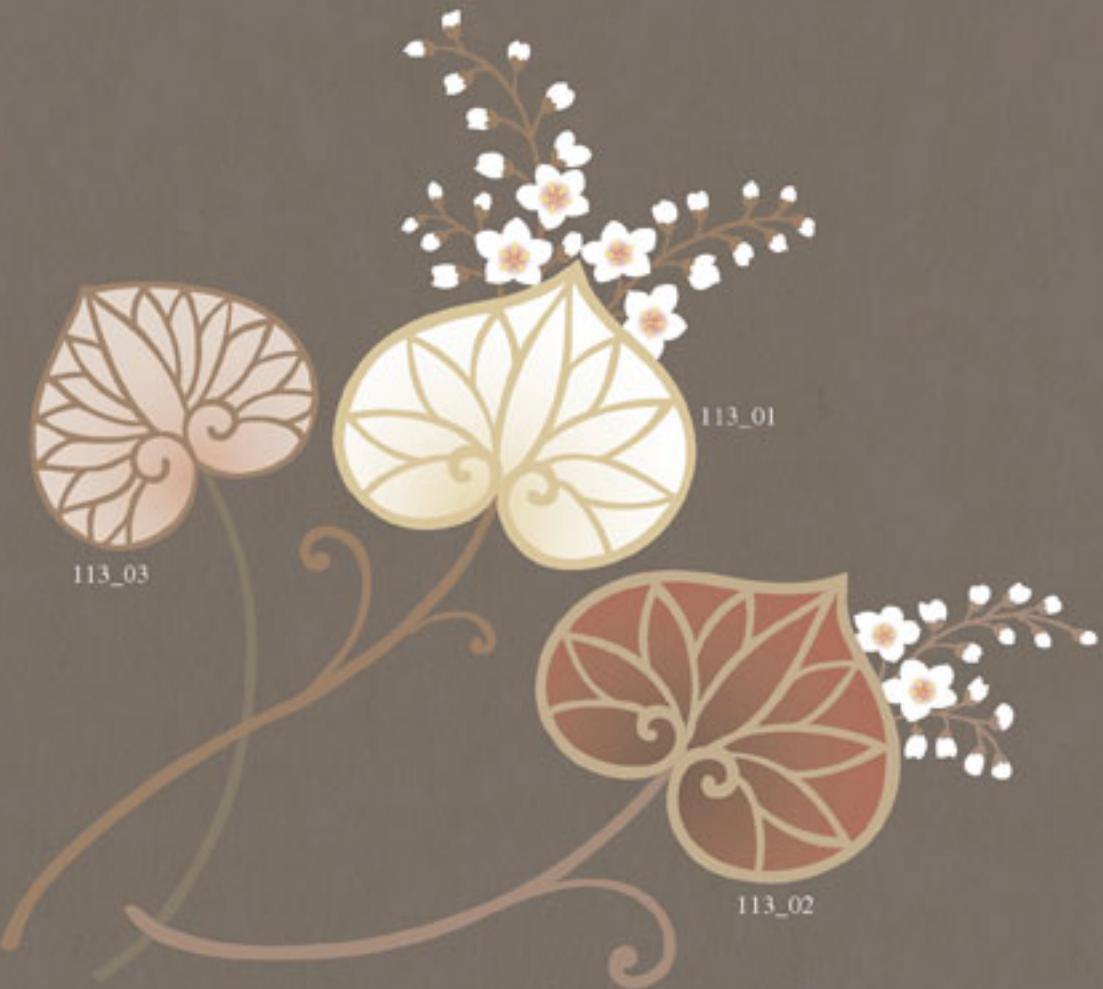
◆意味・諺れ

ハート型の葉と茎、花でさまざまに表現されるが、基本的な形は二枚葉の葵で構成された「二葉葵」である。二枚葵は京都の賀茂神社の神紋でもある。賀茂神社と縁があったことから徳川家の家紋となり、三つ葉の「葵」で構成された「三葉葵」は有名。江戸時代には徳川家だけに許される文様として徳川家以外は使用が禁止されていたが、明治時代以降、一般的にも使用されるようになった。

◆用途

慶事用衣装、婚礼衣装、工芸、和雑貨





山梔子

・Kuchinashi・

くちなし

❖ 季節

【花】6～7月

❖ 文様の種類 代表例

山梔子文様、山梔子紋

❖ 意味・謡れ

「純白の花色、清潤な香り、冬でも青々と茂る葉、オレンジ色に熟す果実」を指して、昔からクチナシに四徳ありといわれる。八重咲きのものは実が成らないが、一重咲きのものは実が成る。実の口が開かないところから「口無し」の名になった。また、実にある突起部分をくちばしに見立てた「クチハシ」からの変化という説もある。果実は「梔子(くし)と呼ばれ、こちらは漢名に由来している。

❖ 用途

夏用和装、工芸、和雑貨、暑中見舞い





115_01



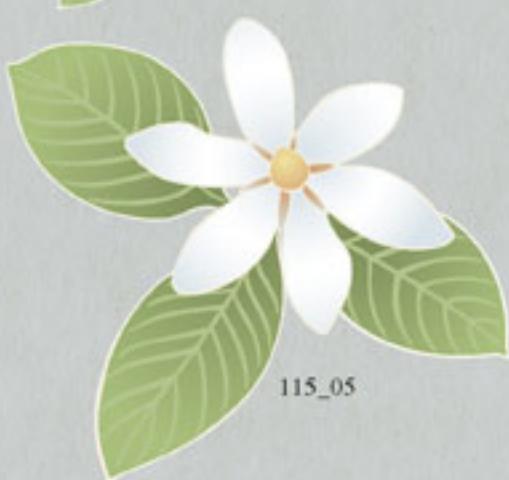
115_02



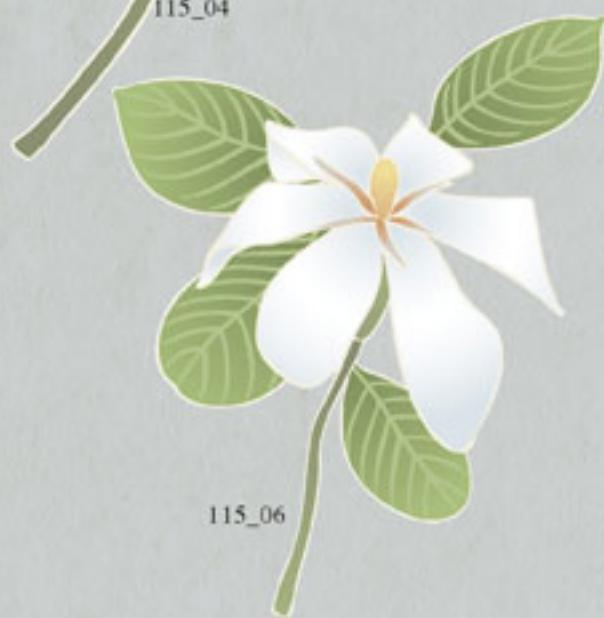
115_03



115_04



115_05



115_06

芍薬

・Syakuyaku・

しゃくやく

❖ 季節

【花】5～6月

❖ 文様の種類 代表例

芍薬文様、芍薬紋、芍薬丸紋

❖ 意味・諺れ

日本には薬草として奈良時代に渡来。その美しい姿から觀賞用として栽培されるようになる。牡丹が樹木であるのに対して、芍薬は草である。「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」の諺は有名で「シャクヤクのように風情があり、牡丹のように華麗で、百合のように清楚」という、女性の美しさを形容したものである。牡丹が花の帝王という意味で「花王(かおう)」と呼ばれるのに対し、芍薬は花の「宰相(さいしょう)」「花相(かしょう)」と呼ばれる。

❖ 用途

夏用和装、工芸、和雑貨





鉄線

Tessen

てつせん

❖ 季節

【花】5～10月(季語は夏)

❖ 文様の種類 代表例

鉄線花文様、鉄線唐草文様

❖ 意味・読み

初夏に白や紫の花を咲かせ、その優美な姿が古くから好まれた。特に薺が印象的で、六弁の花(本来はガク)や葉とともに意匠化されている。その固い蔓(つる)がまるで鉄の針金のようであることからこの名がついた。蔓の特徴から、「鉄線唐草文様」として表現されることが多い。桃山時代の能装束にも見られ、花丸文様にすることもよくある。「鉄線花文様」は単独で用いる場合、初夏の季節感が表現されるが、他の花と組み合わせれば四季を問わず使える文様である。特に固い蔓(つる)を持つことから、確かな結びつきを願い、花嫁衣装や訪問着に用いられることが多い。

❖ 用途

婚礼衣装、夏用和装、工芸、和雑貨





119_01



119_04



119_02



119_03



119_05



119_06

Sample



The image of the gift of Father's day and Mother's day

番外

(組合せ)

◆◆◆◆◆
秋の七草
春の七草
唐草
桜梅桃李
花筏
四君子
松竹梅



松竹梅

-Shouchikubai-

しょうちくばい

◆季節

季節にとらわれない

◆文様の種類 代表例

松竹梅文様

◆意味・読み

寒中でも緑を保つ「松」「竹」は、それぞれ「不老長寿」「生命力・繁栄」を表す。寒さの厳しい季節に花を咲かせる「梅」は、「繁栄」の意味合いがあるとされる。その力強く緑起のよい姿から、吉祥文様の代表となった。中国ではこの3種を「歲寒三友(さいかんさんゆう)」として尊ぶ。(「梅」「水仙」「竹」の場合もある。)「歲寒三友」は論語から生まれた言葉で、逆境でも節操を曲げない文人の理想である3人の友を表している。中国では吉祥の意味はないが、日本の「松竹梅」の元となっている。「松竹梅」には等級を表現する場合もあるが、吉祥の意味合いにはそのような格差はなく、個別を振り分けるための名称として使われたとされている。

◆用途

芸能衣装、婚礼衣装、和装、工芸、和雑貨

※着物では留袖や振袖、訪問着などの晴れ着に用いられることが多い。
表装だけではなく、建築意匠から家具や漆器の塗付け、
風呂敷や手拭い等の小道具まで広く用いられた。
梅を除いた竹と松だけの文様は常綠の吉祥を表し、
男性用としても用いられている。





四君子

・Shikunshi・

しくんし

❖ 季節

季節にとらわれない

❖ 文様の種類 代表例

四君子文様(竹・梅・蘭・菊の4つを描いた文様)

❖ 意味・読み

草木の中の君子に準えて中国で尊ばれた。「竹」は中が空であることから利益をもたらし、「梅」は嚴寒の中で花を咲かせて春を告げる。「蘭」は王者の香りと氣品を備え、「菊」は延命長寿の象徴であると考えられた。これが日本に伝わり、吉祥文として用いられるようになった。中国ではめでたいものを重複させて、より充実した吉祥の効果を表そうと、植物を物事と准えて組み合わせて用いられることが多い。

❖ 用途

和装、婚礼衣装、工芸、和雑貨、年賀状





花筏

・Hanaikada・

はないかだ

❖ 季節

筏に乗せる花の種類によって季節を表すことができる

❖ 文様の種類 代表例

流水花筏文様、花筏文様

❖ 意味・謡れ

実際に「花筏」という植物は存在するが、文様の場合とは別物である。水面に散った花々が一塊になって流れる様を筏に見立てたことから始まったといわれる。古典文様のひとつ。

❖ 用途

(縁起の良い素材を組み合わせて) 婚礼衣装、和装、工芸、和雑貨、年賀状





127_01
127_01a ※花部分
127_01b ※桜部分



127_02
127_02a ※花部分
127_02b ※桜部分



127_03
127_03a ※花部分
127_03b ※桜部分



127_04
127_04a ※花部分
127_04b ※桜部分



127_05
127_05a ※花部分
127_05b ※桜部分

桜梅桃李

Oubaitouri

おうばいとうり

◆季節

季節にとらわれない

◆文様の種類 代表例

桜梅桃李文様

◆意味・語れ

鎌倉時代の宗教家である日蓮は「桜梅桃李の己巳の当体を改めずして無作三身と開見す」と述べた。いずれも独自の美しい花を咲かせることから、桜は桜の、梅は梅の、桃は桃の、李は李の特徴を改めることなく、生かしていくとの意味である。「桜梅桃李」の語が使われ始めた13世紀前半には「楊梅桃李(ようばいとうり)」という言葉も使われている。

◆用途

和装、工芸、和雑貨、年賀状



128_01

128_02





唐草

- Karakusa -

からくさ

番外（組合せ）

❖ 季節

季節にとらわれない

❖ 文様の種類 代表例

蔓唐草文様、菊唐草文様、花唐草文様

❖ 意味・趣れ

絡み合う植物の蔓(つる)を図案化した文様。インド、中国から渡来した。アラビアのアラベスク模様から変化したといわれ、織物や仏教の装飾として日本にもたらされた。植物の種類により忍冬(にんどう)、宝相華(ほうそうげ)、菊、牡丹などの唐草があり、日本では正倉院の宝物の中にもこの図柄が見られる。無限に続く割り付けのような繋ぎ文様などは、繁栄が未来永劫に続くめでたさを表現している。飛鳥時代に渡来し、平安時代に和様化して、日常的な花でも表現されることが多くなった。

❖ 用途

和装、工芸、和雑貨、建築





春の七草

・Haruno-nanakusa・

はるのななくさ

❖ 季節

春

❖ 文様の種類 代表例

七草文様、七草紋

❖ 意味・謂れ

「芹(せり)」「薺(なづな)」「御行(ごぎょう)」「繁縝(はこべら)」「仏の座(はとけのざ)」「菘(すずな)」「蘿葡(すずしろ)」のこと(薺=ベンベン草/御行=母子草/仏の座=田平子/菘=かぶ/蘿葡=大根)。七草は早春にいち早く芽吹くことから、邪氣を払うといわれる。そのため、無病息災を祈って1月7日の朝に七草粥を食べる。五節句のひとつの風習の名残で、人日(じんじつ)の「七草」は古くから歌に詠まってきた。光孝天皇の「君がため春の野に出て若菜(七草)摘むわが衣手に雪はふりつつ」の詩が有名。

❖ 用途

縁起物の染め物、工芸、和雑貨



132_01



132_02



133_01
※御行 (ごぎょう)



133_02
※芹 (セリ)



133_03
※蘇 (スズナ)



133_06
※蘿蔔 (スズシロ)



133_04
※蕪 (ナズナ)



133_05
※仏の魔 (ホトケノガ)



133_07
※斐穂 (ハコボク)

秋の七草

・Akino-nanakusa・

あきのななくさ

❖ 季節

夏秋

❖ 文様の種類 代表例

秋草文様、秋の七草文様

❖ 意味・謂れ

「桔梗(ききょう)」「萩(はぎ)」「女郎花(おみなえし)」「撫子(なでしこ)」「薄(すすき)」「葛(くず)」「藤袴(ふじばかま)」の7種が「秋の七草」とされる(意匠化しにくい「葛」よりも身近な「菊」を加えることもある)。「春の七草」は食して楽しむのに対し、「秋の七草」は見て楽しむとされる。それぞれ単独の草花よりも、各種の草花が集まって表現されるのが特徴。似たような表現に「秋草文様」があるが、これは秋の野の草花を組み合わせたもの、あるいは単独で用いたものの総称である。

❖ 用途

和装、工芸、和雑貨



134_01



134_02



135_01
キヅカモ（ふじばかま）



135_02
キ萩（はぎ）



135_04
キ葛（くず）



135_03
キ蘇（すすぎ）



135_05
キ桔梗（ききょう）



135_07
キ女郎花（おみなえし）

Sample



This is a June bird's orange used to cover a patterned cloth.

アイテム



◆◆◆◆
フレーム & 短冊
コーナー¹
ライレ
花輪
バーツ





139_01



139_02



139_03c



139_03

※ 139_03a～fすべて含む

139_04c



139_04b



139_04

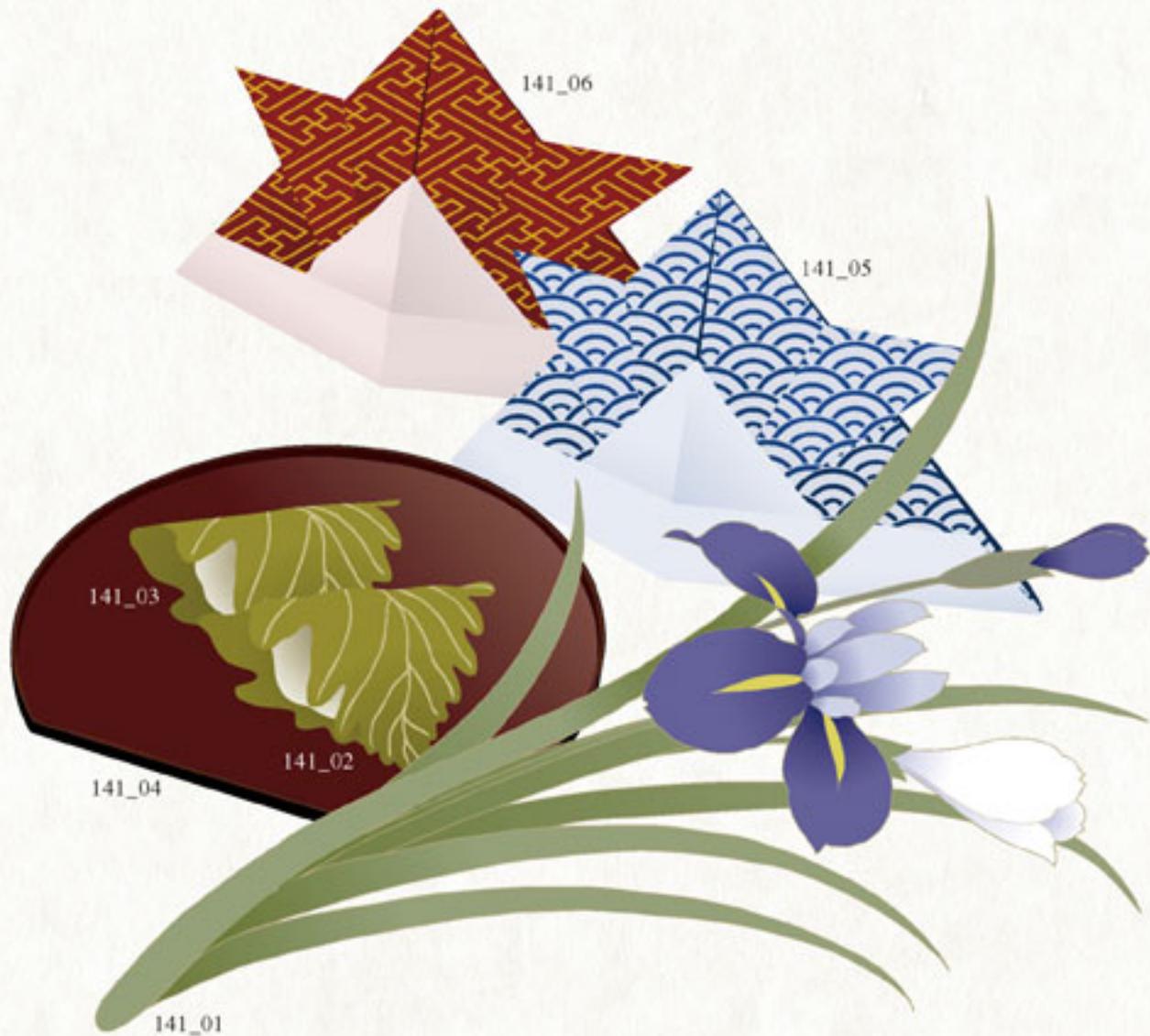
※ 139_04a～cすべて含む

139_03e

139_03f



140
※ 140_01 ~ 05 すべて含む



[141 ⇌ 141_01] ~ 05 すべて含む



142_01



142_02



142_03



142_04



142_05



143_01
143_01a 花部分
143_01b 紗部分



143_03



143_02



143_04

アイテム



144_01
◎パターンブラシ有



144_02
◎パターンブラシ有



144_03
◎パターンブラシ有



144_04



144_05



145_01
※パターンブラシ有



145_02



145_03



145_04



アイテム



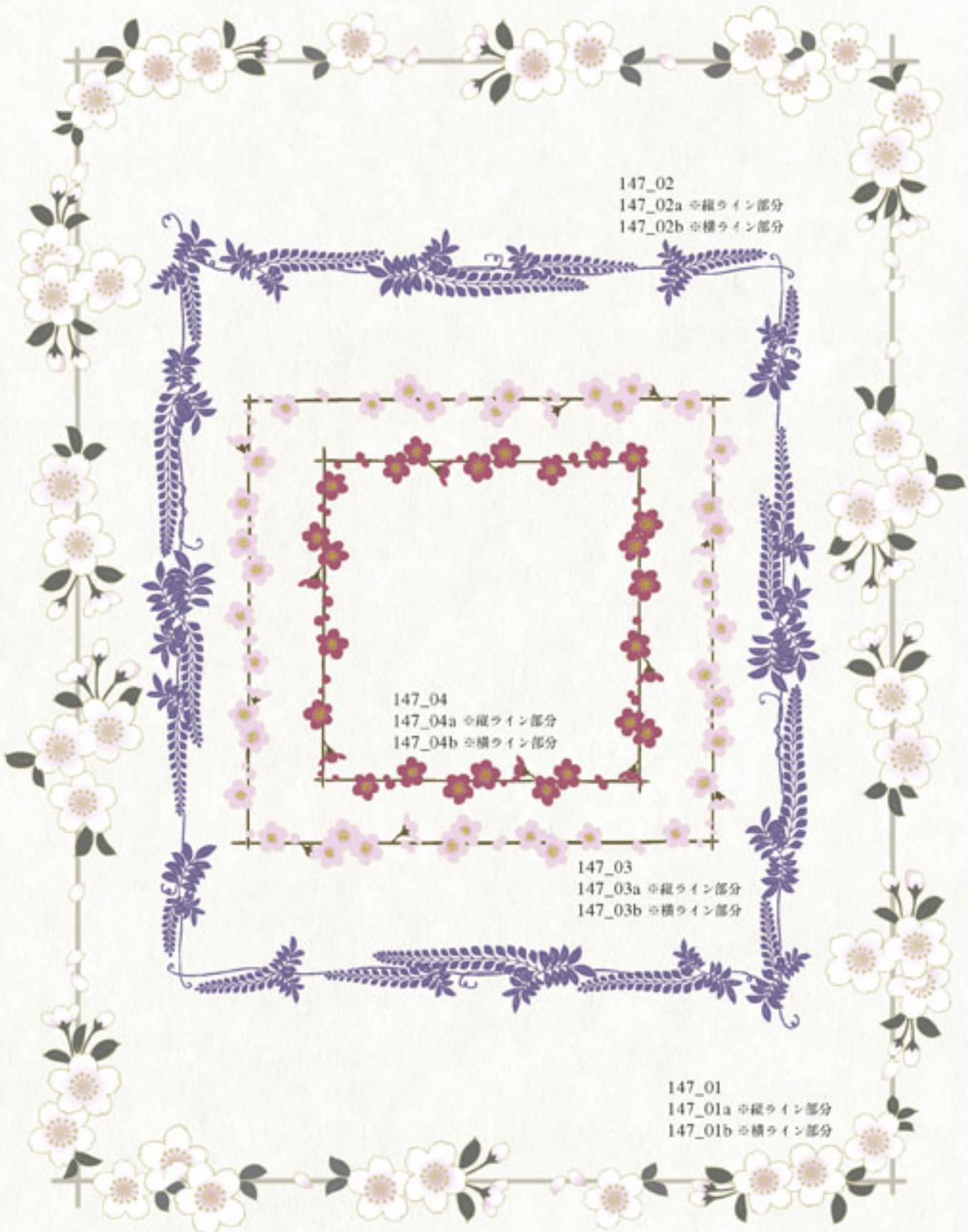
146_01



146_02



146_03





148_01



148_02



148_03



148_04



148_05



148_06



148_07



148_08



148_09



148_10





150_01



150_02



150_03



150_04



150_05



150_06



150_07



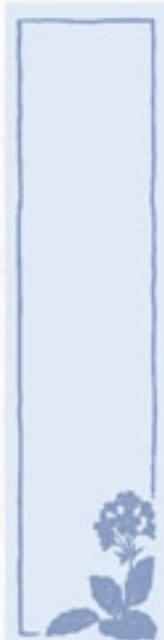
150_08



150_09



151_01



151_02



151_03



151_04



151_05



151_06



151_07



151_08



151_09



151_10

Sample

iPad Case for iPad2
蒔繪 Series



【蒔繪シリーズ】

黒地にシンプルな文様を描いた
スタイリッシュなiPad ケース。
全3種類。iPad2 対応。

桜文様

*素材の使用例です。実際の商品は販売していません。

Sample

iPhone Case
for iPhone4/4s

花小町SERIES

四季を彩る美しい和花をやさしい配色で
デザインしたiPhoneケース。
女性らしく上品で可愛らしい印象です。



連翹 れんぎょう

桜草 サクラソウ

鉢蘭 サザラン



梅 うめ

山梔子 くちなし

桜梅桃李 おうばいとうり

【花小町シリーズ】

全 6 種類。iPhone4/iPhone4S 対応。

*素材の使用例です。実際の商品は販売していません。

【作例制作協力】

株式会社ヒートマシンサービス

<http://store.shopping.yahoo.co.jp/disjapan3773/index.html>

本書の使い方

◆ カタログページについて

本書は誌面カタログと付属DVD-ROMが連動した素材集です。誌面カタログで気に入った作品を見つけたら、付属DVD-ROMからそのページ数が含まれるフォルダを開き、目的的ファイル名を探してください。

また、各素材はそのモチーフ名や意味・謂れ、用途などの解説も掲載していますので、デザインワークの参考にしてください。

カテゴリ名	モチーフ名	ファイル名
新春一春	千両	Senryou
合集	千両	Senryou
○ 意味解説 内容解説	花鳥も千両文様、梅起文様、吉祥文様	
○ 著者解説	正月飾りにちなんで「千両」の文字が書かれた年賀状は古くから江戸の豪華な一家に見受けられ、頭を飾り文様とされる。その頭を飾る花鳥文様から「千両」「千両」(頭)と「頭道」(頭道)と呼んで、頭を飾ることにより、「千両」(頭)と「頭道」(頭道)と「頭」(頭)が重複して正月飾りにされる。江戸時代初期まで千両頭と表記された。	
合集	千両	Senryou
○ 意味解説 内容解説	花鳥物、梅起文様、吉祥文様、正月飾り	
モチーフの季節、意味・謂れなどを解説しています	多色と単色のタイリングパターン素材	モチーフのバツ素材

本書の構成

- カタログページ
- モチーフの季節、意味・謂れなどを解説しています
- 多色と単色のタイリングパターン素材
- モチーフのバツ素材

カタログページ

モチーフの季節、意味・謂れなどを解説しています

多色と単色のタイリングパターン素材

モチーフのバツ素材

◆ データ使用の際の注意事項

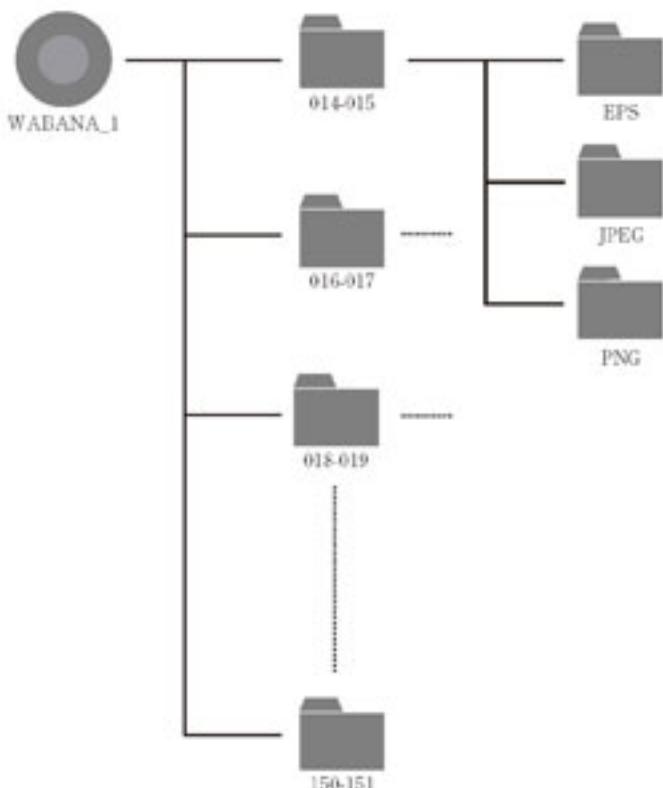
本文中のカタログはレイアウトの便宜上配置したもので、収録したデータとは縦横比などが若干異なる場合があります。また、印刷の際、カタログの色見本とパソコンの画面、プリント時の色が異なって見える場合がありますが、これはそれぞれの色の表示方法の違いによるものですので、ご了承ください。

◆ 付属 DVD-ROM について

本書の付属 DVD-ROM は Windows と Macintosh 両方に対応したハイブリッドタイプです。DVD-ROM には素材データのみを収録しており、Adobe Illustrator、Microsoft Word などのアプリケーションソフトは収録していません。

収録データは見開きページごとのフォルダに分かれています。さらにそのなかで、データ形式 (EPS / JPEG / PNG) ごとのフォルダに分かれています。

◆ フォルダ構成



◆ 収録したデータについて

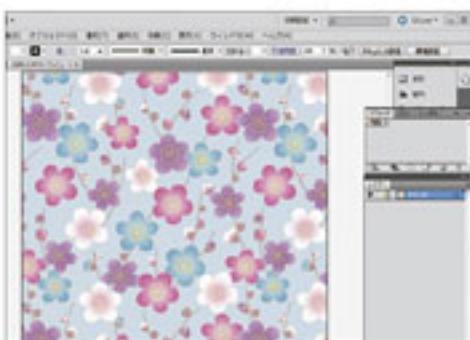
本書の付属 DVD-ROM 内に収録されている素材は、Illustrator EPS 形式、PNG 形式、JPEG 形式で保存されています。EPS、PNG、JPEG 形式の各素材は、それぞれ特性により、同じデザイン素材でも見え方が若干異なる場合があります。

[EPS 形式]

Illustrator CS 形式、カラー モード CMYK、A4 サイズ (210 × 297mm) のアートボード上で保存されています。

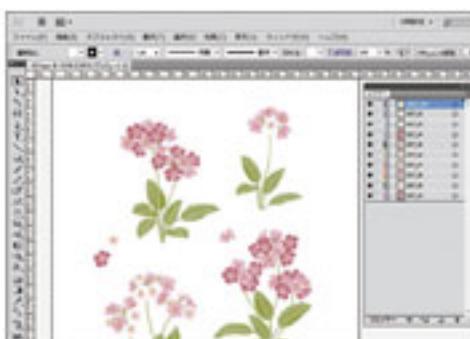
・タイリングパターン素材について

各モチーフのタイリングパターン素材はスウォッチ形式で保存されていて、アートボード上の A4 サイズのエリアに適用した状態になっています。あらかじめトリムエリアが作成されているので、そのまま JPEG などへ書き出しを行えば、A4 サイズの画像を作成することができます。



・バーツ素材について

各モチーフのバーツ素材はレイヤー情報を保持したまま保存されています。バーツごとにファイル名と同名のレイヤーに配置されていますので、組み替えや配色変更などの加工を簡単に行うことができます。



[JPEG 形式]

カラー モード RGB、解像度 350dpi で保存されています。データのサイズはピクセル換算した場合、もっとも小さいもので 220 × 220pixel 程度、もっとも大きいもので 2894 × 4009pixel 程度です。切り抜いて使用することが想定される素材には Photoshop 形式のクリッピングパスが付いています。

[PNG 形式]

カラー モード RGB、解像度 350dpi で保存されています。データのサイズの目安は JPEG 形式と同様です。背景が透明の状態で保存されており、写真などに重ねて使う場合に便利です。なお、背景を透明にする必要のない素材は PNG 形式は収録していません。

◆ 収録したデータの権利について

本書の付属 DVD-ROM に収録したすべてのデータの著作権は法律により守られています。収録されているデータは本書の購入者に限り、個人・法人を問わず、そのままもしくは加工してご自由に何度でもご利用いただけます。ご使用の際、個別の使用許諾申請の必要はありません。また、著作権料や二次使用料を別途お支払いいただく必要もありません。

ただし、データをそのまま、もしくは加工して配布、転載、複製、譲渡・貸与に該当する行為、著作権を侵害する行為は有償無償に関わらず禁止しています。なお、法人や学校で使用する場合には、1台のPCに対して本書1冊の購入をお願いいたします。

本書の付属 DVD-ROM に収録したすべてのデータの著作権は成瀬義夫氏に帰属します。使用許諾の権利を放棄していません。著作権者および株式会社インプレスジャパンはDVD-ROM に収録されたデータの使用によって、あるいは使用できなかったことによって起きたいかなる損害についても責任を負いません。あらかじめご了承ください。

【禁止行為例】

- ・素材データそのもの、または加工したデータを販売したり、CD、DVD-ROM などに複製したりする行為。
- ・素材データそのもの、または加工したデータを再利用できる形で Web 上に公開、ダウンロード可能にするなどの行為。
- ・素材データそのもの、または加工したデータを商標登録・意匠登録する、キャラクターグッズ化するなどの行為。
- ・素材を利用した各種制作サービス(名刺・カード類・雑貨類の作成、写真加工、テンプレートなど)への使用。
- ・年賀状素材集をはじめ、各種素材集・テンプレート集の収録素材への使用。
- ・ダウンロードコンテンツ(年賀状・名刺などの印刷データ、ログバージなど)への使用。
- ・テレビ CM、会社のロゴへの使用。
- ・本書の素材がデザインのメインとなる制作物において、デザイン作者を名乗る行為。

【商用利用について】

素材データは雑誌・広告・新聞などの DTP や Web デザインなど、商用にご利用いただくこともできます。ただし、素材の絵柄が「主要なコンテンツ」と認められる商品・販売品については、下記のいずれかの②表記が必要になります。②表記は使用した絵柄の直近かつ同一面上に 1 文字 3mm 以上の大きさで明記してください。シールや紙タグのように剥離および切り離せるものへの表記は不可です。

① Yoshio Jogan

② 成瀬義夫

「主要なコンテンツ」とは、商品そのもの。あるいは商品のデザインにおいて素材の絵柄が重要な役割を果たしている使い方。素材の絵柄のみの組み合わせによって商品を構成する使い方。素材の絵柄がなくてはデザインが成り立たない使い方などを指しています。なお、デザインの一部として使用(他の絵柄に素材を補助的に組み合わせて使用)する場合は①表記は必要ありません。素材が「主要なコンテンツ」に該当するにも関わらず、②表記を明記していない場合は著作権侵害になりますのでご注意ください。

【商用利用に関するご注意】

以下のケースに該当する場合は、商用にご利用いただくことはできません。

- ・素材を「主要なコンテンツ」とした量産販売品。
(例:Tシャツ、カレンダー、ポストカード、染織製品、アパレル製品、インテリア製品、食器類)
- ・素材を「主要なコンテンツ」とした量産販促物。
(例:パッケージデザイン、包装紙、袋類、染織製品、文具、各種ケースやカバー)

上記に該当する場合でも、別途ライセンス契約をすることでご利用可能になる場合があります。ライセンス契約の詳細につきましては、インプレスカスタマーセンターまでメールにてお問い合わせください。その他、ご利用にあたってご不明な点がありましたら、メールにてお問い合わせください。

インプレスカスタマーセンター E-Mail: info@impress.co.jp

3 はじめに	67 春～初夏（四月～六月）
4 和柄デザインの基礎知識	68 菖蒲（あやめ）
4 本書について	70 鈴蘭（すずらん）
5 表記の違いについて	72 紫陽花（あじさい）
6 文様の基礎知識	74 藤（ふじ）
8 日本の伝統色を活用する春	76 牡丹（ぼたん）
10 日本の伝統色を活用する夏	80 桃杞（びわ）
	82 杏（あんず）
	84 苎環（おだまき）
13 新春～春（一月～三月）	86 杜若（かきつばた）
14 千両（せんりょう）	88 皐月（さつき）
16 万両（まんりょう）	90 葉桜（しゃが）
18 福寿草（ふくじゅそう）	92 石楠花（しゃくなげ）
20 椿（つばき）	94 蕊躅（つつじ）
24 梅（うめ）	96 花海棠（はなかいどう）
28 沈丁花（じんちょうげ）	98 花菖蒲（はなしょうぶ）
	100 花水木（はなみずき）
31 春（三月～四月）	102 一人静（ひとりしずか）
32 桜（さくら）	104 水芭蕉（みずばしょう）
36 桜草（さくらそう）	106 山吹（やまぶき）
38 片栗（かたくり）	108 蓮華草（れんげそう）
40 辛夷（こぶし）	110 勿忘草（わすれなぐさ）
42 桃（もも）	112 婆（あおい）
44 木蓮（もくれん）	114 山梔子（くちなし）
46 春蘭（しゅんらん）	116 荀薺（しゃくやく）
48 茄（すみれ）	118 鉄線（てっせん）
50 蒲公英（たんぽぽ）	121 番外（組合せ）
52 土筆（つくし）	122 松竹梅（しょうちくばい）
54 猫柳（ねこやなぎ）	124 四君子（しきんし）
56 木瓜（ほけ）	126 花枝（はないかだ）
58 雪柳（ゆきやなぎ）	128 櫻梅桃李（おうばいとうり）
60 連翹（れんぎょう）	130 唐草（からくさ）
62 蔷薇（わらび）	132 春の七草（はるのななくさ）
64 花弁吹寄せ（はなびらふきよせ）	134 秋の七草（あきのななくさ）

『下巻』収録モチーフ一覧

夏～初秋（七月～八月）

萩（はぎ）
桔梗（ききょう）
百合（ゆり）
月下美人（げっかびじん）
凌霄花（のうぜんかずら）
薊（あざみ）
朝顔（あさがお）
向日葵（ひまわり）
撫子（なでしこ）
百日紅（さるすべり）
芭蕉の葉（ばしょうのは）
鸞草（さぎそう）
女郎花（おみなえし）
酸漿（ほおづき）
木槿（むくげ）
鶴頭（けいとう）
茄子（なす）
沢瀉（おもだか）
芙蓉（ふよう）
杜鵑草（ほととぎす）
彼岸花（ひがんばな）
枝垂柳（しだれやなぎ）

秋（九月～十月）

秋桜（こすもす）
楓（かえで）
菊（きく）
稻（いね）
金木犀（きんもくせい）
葦（あし）
紫式部（むらさきしきぶ）
竈胆（りんどう）
銀杏（いちょう）

薄（すすき）
秋明菊（しゅうめいぎく）
薺（つた）
石蕗（つわぶき）
柿（かき）
栗（くり）
木通（あけび）
柘榴（ざくろ）
島瓜（からすうり）
七電（ななかまど）
落葉吹寄せ（おちばふきよせ）

晩秋～冬（十一月～十二月）

山茶花（さざんか）
八手（やつて）
躑躅（ろうばい）
水仙（すいせん）

常綠（通年）
南天（なんてん）
橘（たちばな）
松（まつ）
竹（たけ）
籠（ささ）
薔薇（ばら）
葡萄（ぶどう）
桐（きり）
梶の葉（かじのは）
瓢箪（ひょうたん）
露芝（つゆしば）
羊齒（しだ）
蓮（はす）

<著者紹介>

成願義夫 (ジョウガン ヨシオ)

Yoshio Jogan

1955年生まれ

日本画家・着物图案家・グラフィックデザイナー
日本の伝統文様と伝統的色彩の研究家
(株)京都デザインファクトリー 代表取締役社長

【URL】<http://www.wagara-kyoto.com/>

【著作物】

●和柄素材集

『花選都』友禅日本の花 (2007/データクラフト)

『花選都』友禅京の伝統柄 (2007/データクラフト)

『花選都』友禅京の新和柄 (2007/データクラフト)

●書籍

『和柄バーブ&パターン素材』 (2009/ソーテック社)

『和柄の花 素材集』 (2009/ソーテック社)

『和柄バーブ&パターン素材 vol.2』 (2010/ソーテック社)

『TheWAGARA 日本の伝統美素材集』 (2011/ソーテック社)

『懐かしくて新しい レトロモダン素材集』 (2011/技術評論社)

わ は な そ ざ い し ょう 和 花 素 材 集 四 季 花 輝 上 卷

2012年1月21日 初版第1刷発行

Staff

著者 成願義夫

発行人 土田米一

発行 株式会社インプレスジャパン

An Impress Group Company

〒102-0075 東京都千代田区三番町20番地

発売 株式会社インプレスコミュニケーションズ

An Impress Group Company

〒102-0075 東京都千代田区三番町20番地

表紙デザイン 成願義夫

デザイン協力 (株)京都デザインファクトリー

成願ゆみこ/川原マリア/奥村広美

深澤菜美/西原朋子

作例写真 はしもとかな

作例協力 (株)ヒートマシンサービス

DVD-ROM 作成 山内堅之

編集 平松裕子

編集長 高橋隆志

本書の内容に関するご質問は、お手数ですが株式会社インプレスジャパン『和花素材集四季花輝 上巻』販売係まで、切手を貼つて返送先の住所・氏名を記入した返信用封筒を同封のうえ、封書にてお送りください。また、本書の内容を超えるご質問にはお答えいたしかねます。ご了承ください。

本書は著作権上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、株式会社インプレスジャパンからの文書による許諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製することは禁じられています。

Copyright ©2012 Yoshio Jogan. All right reserved.

印刷所 大日本印刷株式会社

ISBN978-4-8443-3138-4

Printed in Japan

参考文献

和色大辞典 (<http://www.colordic.org/w/>)

『日本の配色 Traditional Japanese Color Palette』 (PIBOOKS)

造本には万金を割しておりますが、万一、落丁・乱丁がございましたら、送料小社負担にてお取り替え致します。お手数ですが、インプレスカスタマーセンターまでご返送ください。

■商品の購入に関するお問い合わせ先

インプレスカスタマーセンター

〒102-0075 東京都千代田区三番町20番地

TEL 03-5213-9295 FAX 03-5275-2443

e-mail info@impress.co.jp

■書店・取次様のお問い合わせ先

出版営業部

〒102-0075 東京都千代田区三番町20番地

TEL 03-5275-2442 FAX 03-5275-2444

読者アンケートにご協力ください

<http://www.ImpressJapan.jp/books/3138>

上記URLより「読者アンケートに答える」をクリック。回答いただいた方の中から、毎月抽選でVISAギフトカード(1万円分)や図書カード(1,000円分)などをプレゼントいたします。当選は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

